

北海道大学交流デー（中国 南京大学・東南大学）を開催 サステナビリティ・ウィーク2014の開催



1 北大病院の10年の歩み

■ 全学ニュース

- 2 北海道大学交流デー（中国 南京大学・東南大学）を開催
- 3 平成26年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学から2氏
- 4 平成26年度科研費審査委員表彰に本学から6名
- 5 北大フロンティア基金
- 7 北海道大学事務職員海外インターンシップを実施
- 8 AO入試合格者の発表
- 8 帰国子女入試合格者の発表
- 9 大学入試センター試験
本学一般入試個別学力検査等 実施体制等の決定
- 11 サステナビリティ・ウィーク2014の開催
- 26 第25回北海道大学教育ワークショップ（FD）を開催
- 27 第4回北海道大学教育改善マネジメントワークショップを開催
- 28 第16回北大・九大合同フロンティア・セミナーを開催
- 29 研究者のためのスキルアップセミナー③「恋愛下手？
それじゃ科学は伝わらない～何が人をその気にさせるの
か～」を開催
- 30 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで「キャ
リアパス多様化支援セミナーⅠ（交渉学）」を開催
- 31 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで
「Advanced COSA（2）」を開催
- 32 ビジネスEXPO「第28回北海道 技術・ビジネス交流会」に出展
- 32 「シーズ・ニーズマッチングフェア with 金融機関」を実施

■ 部局ニュース

- 33 会計専門職大学院が開設10周年記念シンポジウムを開催
- 34 触媒化学研究センターが情報発信型国際シンポジウムを開催
- 36 触媒化学研究センターが7th Negishi-Brown Lecturesを
バドュー大学と共催
- 37 平成26年度低温科学研究所公開講座「低温の魅力～低温
科学の最前線」を実施
- 38 観光学高等研究センター公開講座「連続対談：観光創造の最前線
～教員とゲストが語る観光研究の魅力と課題～」(全5回)を開催
- 39 薬学部で第17回生涯教育特別講座を開催



第5回ESD国際シンポジウム



研究者のためのスキルアップセミナー③

- 39 平成26年度薬学部成績優秀賞授与式を挙行
- 40 法学研究科・法学部・公共政策大学院で留学生パーティを開催
- 40 「法科大学院に関するアドバイザリーグループ会議」を開催
- 41 農学研究院で平成26年度第1回、第2回FD研修会を開催
- 42 「脳科学研究教育センター合宿研修」の開催
- 43 歯学研究科で「動物供養祭」を挙行
- 43 薬学部で救急救命講習を開催
- 44 防災訓練等の実施
- 45 北海道大学病院が独立行政法人地域医療機能推進機構
(JCHO) 札幌北辰病院とICTネットワーク協定を締結
- 46 附属図書館で国際協力をテーマとしたパネル展示、講演
会、図書展示を開催

■ 諸会議の開催状況 47

■ 学内規程 47

■ 研修

- 48 平成26年度国立大学法人北海道大学簿記研修
- 48 北海道地区国立大学における学部・大学院入学前留学生
教育プログラム 平成26年度留学生支援担当教職員研修
及び平成26年度北海道地区大学等留学生担当職員研修
- 49 平成26年度北海道地区国立大学法人等会計事務研修（初級）
- 49 平成26年度北海道地区国立大学法人等会計基準研修

■ 表敬訪問

- 50 国内
- 50 海外

■ 人事 51

■ 資料

- 52 平成26年度外国人留学生数（平成26年11月1日現在）
- 53 平成26年度国別外国人留学生数（平成26年11月1日現在）
- 54 北大時報掲載記事事項別一覧（平成26年掲載分）



触媒化学研究センター
情報発信型国際シンポジウム



脳科学研究教育センター合宿研修



法学研究科・法学部・公共政策大学院
留学生パーティー



薬学部 救急救命講習

北大病院の10年の歩み

理事 い やま 鏗山 けんいち 賢一



平成17年の冬

北大赴任前の平成17年3月、大学から厚さ2cmの病院経営に関する財務データ集が送られてきました。「よく読んで来てください」との関係者からの電話もありました。病院の収入に関する、ありとあらゆる数値が数年分に亘って集められていました。ただし、そこには病院のコスト（費用）に関するデータは少なかった様に思います。

当時の中村睦男総長から病院の「経営改革」を委ねられ、意思決定機関の「病院執行会議」に参加、病院財務担当理事として病院との関わりがスタートしました。「経営改革」とは簡単に言えば、法人化後に毎年4億円ずつ病院宛の国からの交付金が削減されるため（結果には5年後、単年度で交付金が20億円減額）、これに耐え得る経営体制を作り上げる事です。

当時の病院収入が200億円ですから、5年後1割に相当する交付金がなくなる部分をどう埋め合わせるのか、それも収入を単に20億円増やすのではなく、診療に使われる医薬品、材料費など費用を吸収したうえで20億円、すなわち利益を増やさなければなりません。法人化以前から病院施設・設備整備は、所要資金の9割は自己負担が原則（法人化時点で国からの借入金に振替）ですが、その認識が薄かった様です。因みに借入金は16年度末で353億円ありました。

意識改革

大学では当時、必要経費は国から措置されるものという考えがあり、病院も同じ発想でした。診療行為で得る病院収入と国からの交付金、医薬品、材料費、人件費等の経費を各々で計数整理しているものの、「収入－費用＝利益」という視点で分析する発想が薄い状況でした。いわんや利益をあげるとはどういう事かという状況でした。過去の病院にコスト（費用）データが少なかったのも頷けました。

早々に「病院執行会議」で、世に言う管理会計とは何か、患者さんを紹介してくれる病院へのマーケティングと

はどういうことかを、手作りの資料を使って説明しては違和感を抱かれたのが懐かしい思い出です。何年か経て、「この人何を言っているんだ？」と当時は思ったと出席していた方に打ち明けられ、私は異邦人と思われていたのだと得心した次第です。

ひたすら実行あるのみという状況で、病院収入を増やし、医薬品費などの負担を吸収したうえで利益を増やす具体策を全員で考えなければ明日はありませんでした。「このままでは病院は潰れる」と言えば、「潰れるとはどういうことか、良く分からない」と言われ、ならば「潰れるということは、資金がなく診療科の必要とする欲しい設備の更新・新設ができず、古い設備のままでは結果的に患者さんが来なくなること」と話して理解を広げました。

担当理事の説法だけでは物事は進みません。病院内での経営改革を進めるには資金が必要です。収入を増やすべく診療を行ううえでボトルネックとなっている部分に新しい機器や設備、人員を投入する、すなわち世に言う「先行投資」を行う必要があります。「費用」が先、「収益」は後からついてくると本部の役員に説いていました。そうした実績を基に、双方の信頼関係を積み上げてきたと思います。

今の姿

病院収入は200億円から260億円、借入金は353億円から97億円と、大手大学病院のなかでも健全な状態です。収入を得るための経費率でも良好な姿です。結果で見れば、10年かけ診療設備の更新を「何とか病院で負担可能な状況」になりました。しかし「何とか」というのは、多くの問題を未だ抱えていること。現在、診療報酬制度の変革に消費税増税も加わり、全くの逆風下です。

教育と研究と診療を成り立たせるには、高いモラルがなくては務まりません。更に経営という視点で改革に取り組まれている先生、看護師、薬剤師、コメディカル、病院職員全員の努力の結果が今の姿です。10年間の努力への敬意とともに、次の10年の飛躍に向け頑張りましょう。

■ 全学ニュース

北海道大学交流デー（中国 南京大学・東南大学）を開催



南京大学での記念撮影

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、11月17日（月）に南京大学で、11月18日（火）には東南大学において、北海道大学交流デーを開催しました。

南京大学と東南大学は共に、1902年に創設された三江師範学堂を前身とする大学ですが、何度かの統廃合を経て現在に至っています。

南京大学は中国江蘇省南京市の鼓楼、浦口、仙林の3箇所にキャンパスがあり、学生約55,000人が在籍する国立総合大学です。本学とは平成18年に大学間交流協定を締結しています。

開会式には、同大学から濮 励傑副学長をはじめ、教職員、学生等約260人の出席があり、本学からは、上田一郎理事・副学長をはじめ、44人の教職員及び学生が出席しました。

開会式では、濮副学長の挨拶からはじまり、続いて、本学の上田理事・副学長の挨拶の後、独立行政法人日本学術振興会北京研究連絡センターの和田修所長から祝辞をいただきました。その後、南京大学国際協力交流処の孫雯副処長から同大学の紹介があり、最後に、本学北京オフィスの野澤俊敬所長による、本学の国際交流及び日本への留学等の説明がありました。

開会式の後は、7つの分科会に分かれて、研究交流セミナーが行われました。

第1分科会は、本学教育学研究院と南京大学外国語学院日本語学科、第2分科会は、本学工学研究院と南京大学建築学院、第3分科会は、本学農学研究院と南京大学生命科学院、第4分科会は、本学法学研究科と南京大学法学

院、第5分科会は、本学理学研究院と南京大学物理院、第6分科会は、本学理学研究院と南京大学化学化工学院、第7分科会は、本学情報科学研究科と南京大学電子科学及び行程学院との間で行われ、本学の紹介や研究交流が行われました。これらの分科会には、本学の参加者を含め、全体で約115人が参加しました。

また、各分科会と並行して、南京大学逸夫楼で個別留学相談会及び本学各研究科等を紹介するパネル展が行われました。

11月18日（火）には東南大学で大学交流デーを行いました。

東南大学は南京市の四牌楼、九竜湖、丁家橋の3箇所にキャンパスがあり、教職員約2,500人、学生約36,000人が在籍する国立総合大学で、本学とは、平成22年に大学間交流協定を締結しています。

開会式には、同大学から浦 躍朴副学長をはじめ、教職員、学生等約260人の出席があり、本学からは、上田理事・副学長をはじめ、42人の教職員及び学生が出席しました。

開会式では、東南大学の浦副学長の挨拶からはじまり、続いて、本学の上田理事・副学長の挨拶の後、独立行政法人日本学術振興会北京研究連絡センターの和田所長から祝辞をいただきました。その後、本学北京オフィスの野澤所長による本学の国際交流及び日本への留学等の説明がありました。

開会式の後は、5つの分科会に分かれて、研究交流セミナーが行われました。

第1分科会は、本学教育学研究院と



南京大学で挨拶をする上田理事・副学長



挨拶をする東南大学の浦副学長



東南大学での開会式

東南大学外国語学院日本語学科、第2分科会は、本学工学研究院と東南大学建築学院、第3分科会は、本学保健科学研究院と東南大学医学院、第4分科会は、本学理学研究院と東南大学物理学院、第5分科会は、本学情報科学研究科と東南大学計算機科学及び行程学院との間で行われ、本学の紹介や研究交流が行われました。これらの分科会には、本学の参加者を含め、全体で約75人が参加しました。

また、分科会と並行して、東南大学外国語学院において個別留学相談会及び本学各研究科等を紹介するパネル展が行われました。

今後も国際本部では、北京オフィスを活用し、中国における教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、幅広い面での交流を強化していきます。

（国際本部国際連携課）

平成26年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学から2氏

本年度の医学教育等関係業務功労者として、本学から医学研究科技術支援部 技術専門員 石川季子夫氏、同技術専門職員 中瀬健一氏が表彰され、11月20日（木）ホテルフロラシオン青山において、表彰式が行われました。

この表彰は、文部科学省が毎年、医学または歯学に関する教育・研究若しくは患者診療等の補助的業務に従事し、顕著な功労のあった方々に対して行うものです。

各氏の表彰にあたっての感想を紹介します。

（総務企画部広報課）



医学研究科技術支援部
技術専門員

いしかわ きしお
石川 季子夫 氏

11月20日（木）東京・青山のホテルにて、文部科学省主催「平成26年度医学教育等関係業務功労者表彰式」に出席して参りました。今年度は、医学・歯学教育関係より20名、大学病院関係より91名の計111名の方が全国より選出されました。北海道からは、旭川医科大学2名、札幌医科大学1名、北海道大学医学研究科技術支援部より中瀬健一さんと私の2名が表彰を受けました。

現在の地に動物実験施設が新築落成（昭和49年）した翌年に採用、昨年より老朽化が目立ってきた施設の全面改修が始まり、今年5月末に竣工、9月より利用開始となりました。表彰を受けるにあたり、この表彰式が始まった年が昭和49年と聞き、私と動物実験施設の運命的なものを感じました。

私が医学研究科附属動物実験施設に勤めてから今日まで、医学・科学の進歩はめざましく、それに伴い実験動物の飼育管理や手技・機材の新しい操作技術の習得など、多くのことを学ばなければなりません。実験動物について何も知らない私は、諸先生、諸先輩のご指導、同僚や多くの職員の方に支えられ、何とか業務を遂行して来た次第です。皆様方には、心から感謝とお礼を申し上げます。

最後に、北海道大学、医学研究科・医学部、動物実験施設、技術支援部のますますの発展を願っております。



医学研究科技術支援部
技術専門職員

なかせ けんいち
中瀬 健一 氏

表彰式は、11月20日（木）東京・青山の由緒あるホテルで執り行われました。式は国歌斉唱に始まり粛々と進められ、文部科学大臣よりお祝いの辞を戴き、改めて重みのある表彰であることを実感しました。

振り返ると25年前の採用当時、解剖件数も多く夜間・休日の業務が続き、自分自身の時間も思うように作れず、長くこの仕事を続けるのは困難ではないかと悩んでいたこともありました。その時期のことを思うと、改めて隔世の感を抱いています。また、反省することも多く、御遺体や御遺族の気持ちに対し今思うと十分な懇篤な姿勢で向かっておらず、今更遅いですが申し訳なく恥ずかしい気持ちでいっぱいです。

解剖業務は、病理学講座の2つの分野である分子病理学分野と腫瘍病理学分野で月毎交互に請負っており、医学的知識に乏しい私が今までやってこられたのは、講座の先生方、教室職員の方々の温かい御指導のおかげと心より感謝しています。ありがとうございました。

微力ではありますが、残り少ない現役期間を頑張っております。

最後に北海道大学の益々の発展を願っております。

（医学研究科・医学部）

平成26年度科研費審査委員表彰に本学から6名

科学研究費助成事業の配分審査を行っている独立行政法人日本学術振興会では、審査の質を高めるため、同会設置の学術システム研究センターにおいて、審査終了後、審査結果の検証を行い、その結果を翌年度の審査委員の選考に反映しています。さらに平成20年度からは、検証結果に有意義な審査意見を付した審査委員の表彰を実施し

ています。

10月31日（金）、独立行政法人日本学術振興会より、平成26年度審査委員の表彰者が公表されました。今回は、約5,300名の第1段審査（書面審査）委員の中から170名が選考されました。

本学からは、水産科学研究院 今井一郎教授、医学研究科 大滝純司教授、電子科学研究所 小松崎民樹教

授、歯学研究科 佐藤嘉晃准教授、理学研究院 高畑雅一教授、工学研究院 渡部正夫教授の6名が表彰されました。

11月6日（木）には川端理事室で表彰式が行われ、川端和重理事・副学長より、表彰者へ花束が手渡されました。

（研究推進部外部資金戦略課）



（左から医学研究科 大滝教授、工学研究院 渡部教授、歯学研究科 佐藤准教授、川端理事・副学長、水産科学研究院 今井教授、理学研究院 高畑教授、電子科学研究所 小松崎教授）

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

| | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 北大フロンティア基金情報 | 16,421件 2,950,554,060円 |
| 基金累計額 (11月30日現在) | 教職員の寄附率 33.6% (1,317件/3,921人) |

11月のご寄附状況

法人等4社、個人60名の方々から8,794,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名 (法人等)

旭川レディースクリニック、医療法人社団 美しが丘眼科、社会医療法人 高橋病院

寄附者ご芳名 (個人)

| | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 合川 正幸 | 青木 庸治 | 浅野 賢二 | 稲富 徹 | 入澤 秀次 | 岩隈 勉 | 後路 好章 | 大友 毅 |
| 小木曾嘉文 | 小内 透 | 小原 大和 | 帰山 雅秀 | 金川 眞行 | 河本 充司 | 木村 成二 | 小長井奎幸 |
| 斉藤 久 | 志藤 光男 | 清水 智之 | 白旗 修 | 須田 孝徳 | 瀬名波栄潤 | 高橋 英機 | 高橋 光彦 |
| 田原 泰夫 | 土家 琢磨 | 寺澤 睦 | 堂徳 将人 | 豊田 威信 | 羽田 均 | 浜田 弘巳 | 原 正則 |
| 逸見 勝亮 | 本多 康二 | 牧野 文雄 | 松田 悦子 | 三島 史朗 | 水上 晋 | 南 洋志 | 峰村 昭彦 |
| 安田 卓二 | 山内 隆嗣 | 山崎 賢司 | 吉田 広志 | 渡 正博 | | | |

銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)

(個人)

岩隈 勉, 堂徳 将人, 松田 悦子, 三島 史朗

感謝状の贈呈



松田悦子 様 (平成26年11月28日)

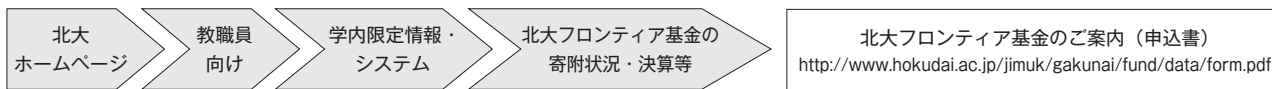


岩隈 勉 様 (平成26年12月2日)

ご寄附のお申し込み方法

①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

北海道大学事務職員海外インターンシップを実施

総務企画部人事課では、本学のグローバル化構想に基づき、国際本部及び研究推進部の協力を得て、今年度より、「北海道大学事務職員海外インターンシップ」を実施しています。

本研修は、事務職員を外国の協定校等に派遣し、海外での就業、国際業務に関する調査・研究活動等を体験させることにより、国際的視野の養成、英語による実務能力の向上及び改善に結びつけ事務職員の国際通用性を高めることで、本学の国際化推進を担う人材の育成・強化を目的としています。

本研修には、英語圏の大学における業務の就業体験及び自ら選定した大学へのインタビュー等を通じて英文レポートの作成及び本学のPR活動等を行う「自主研究コース」、英語圏の大学における業務の就業体験、語学研修及び専門能力開発プログラムを受講する「語学研修コース」の2つのコース

を設定しています。今回、「自主研究コース」には国際本部国際教務課の高木敦子係員、「語学研修コース」には北海道大学病院管理課の石原壮太郎主任が選考されました。両名は10月1日付けで国際本部付に配置換のうえ海外へ派遣されることとなり、高木係員は10月18日（土）から翌年3月26日（木）までの期間、米国マサチューセッツ大学でのインターンシップ及び独立行政法人日本学術振興会ワシントン海外研究連絡センターを拠点に自主研究を、石原主任は11月3日（月・祝）から翌年3月20日（金）までの期間、豪州シドニー大学、ニュー・サウスウェールズ大学の両校においてインターンシップ及び語学研修を行う予定です。

今年度は年度途中からの実施のため、十分な準備期間がない中、両名とも慌ただしく渡航の準備をし、各々の

派遣先へ出発しました。本学で初めての取組ということで手探り状態の部分もあり、また、ネイティブの英語のスピードや地域特有の訛りなど、実際に体験しないとわからない苦労をしながらも、各校スタッフのサポートのおかげで非常に有意義な体験をしています。両名の経験が本学にフィードバックされることで、本学事務職員の国際通用性の向上に繋がるものと期待されます。

なお、本研修制度は次年度以降は長期の準備期間を設け、継続的に実施する予定です。

また、本研修に関する報告会を次年度の事務職員英語研修内で実施する予定ですので、より多くの事務職員が聴講されるようお願いいたします。

(総務企画部人事課)

○マサチューセッツ大学アマースト校（アメリカ）



クラーク博士の記念碑



インターナショナル・プログラム・オフィスディレクター（左）と高木係員

○シドニー大学（オーストラリア）



シドニー大学構内



クラスメイトと石原主任（手前）

AO入試合格者の発表

平成27年度AO入試は、募集人員55名に対し、132名の出願があり、自己推薦書、個人評価書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月16日（日）に第2次選考の課題論文と面接試験を実施し、12月2日（火）に合格者発表を行い、22名が合格しました。

なお、大学入試センター試験を課す医学部及び工学部の合格者発表は、平成27年2月10日（火）を予定しています。

(学務部入試課)

平成27年度AO入試合格者数等一覧

| 学部・学科等 | | 募集人員 | 志願者数 | 倍率 | 合格者 | |
|------------------------------|---------|---------|----------|---------|--------|---|
| 理学部 | 物理学科 | 5 | 11 (2) | 2.2 | 2 (1) | |
| | 地球惑星科学科 | 5 | 17 (0) | 3.4 | 5 (0) | |
| 医学部 | 医学科 | 5 | 7 (0) | 1.4 | - | |
| | 保健学科 | 看護学専攻 | 7 | 22 (15) | 3.1 | - |
| | | 作業療法学専攻 | 4 | 5 (3) | 1.3 | - |
| 歯学部 | | 5 | 14 (1) | 2.8 | 5 (0) | |
| 工学部応用理工系学科 (応用マテリアル工学コース) | | 4 | 5 (3) | 1.3 | - | |
| 水産学部 | | 20 | 51 (6) | 2.6 | 10 (1) | |
| 計 | | 55 | 132 (30) | 2.4 | 22 (2) | |

※ () 内の数字は、道内高校出身者で内数。

帰国子女入試合格者の発表

平成27年度帰国子女入試は、10学部46名の出願があり、出願書類による第1次選考合格者に対し、11月16日（日）に第2次選考の課題論文と面接試験を実施し、12月2日（火）に合格発表を行い、6名が合格しました。

(学務部入試課)

平成27年度帰国子女入試合格者数等一覧

| 学部・学科等 | | 募集人員 | 志願者数 | 合格者数 | |
|---------|--------------|-------|--------------------|-------|---|
| 文学部 | | 若干名 | 6 (2) | 1 (0) | |
| 教育学部 | | | 1 (0) | - | |
| 法学部 | | | 1 (1) | 1 (1) | |
| 経済学部 | | | 1 (1) | - | |
| 理学部 | 数学科 | | 1 (0) | - | |
| | 物理学科 | | 2 (0) | - | |
| | 化学科 | | 1 (1) | - | |
| | 生物科学科 | | 生物学専修分野 | 2 (1) | - |
| | | | 高分子機能学専修分野 | - | - |
| 地球惑星科学科 | | | - | - | |
| 医学部 | 医学科 | | 11 (7) | - | |
| | 保健学科 | | 看護学専攻 | 2 (2) | - |
| | | | 放射線技術科学専攻 | - | - |
| | | | 検査技術科学専攻 | - | - |
| | | | 理学療法学専攻 作業療法学専攻 | - | - |
| 歯学部 | | | - | - | |
| 薬学部 | | | 2 (2) | - | |
| 工学部 | 応用理工系学科 | | 2 (0) | - | |
| | 情報エレクトロニクス学科 | | 3 (1) | 2 (1) | |
| | 機械知能工学科 | | 6 (2) | 2 (1) | |
| | 環境社会工学科 | | - | - | |
| 農学部 | | | 4 (2) | - | |
| 獣医学部 | | 1 (0) | - | | |
| 水産学部 | | - | - | | |
| 計 | | | 46 (22) | 6 (3) | |

※ () 内の数字は、女子で内数。

大学入試センター試験 本学一般入試個別学力検査等 実施体制等の決定

11月21日（金）開催のアドミッションセンター企画運営会議・総務部門・試験場部合同会議において、平成27年度大学入試センター試験及び本学一般入試個別学力検査等に係る実施体制等を決定しました。

なお、大学入試センター試験については、藤女子大学、天使大学、東海大学札幌キャンパス、北海道武蔵女子短期大学との共同実施となります。

主な事項は、次のとおりです。

（学務部入試課）

大学入試センター試験

1 実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

（札幌市）

| 試験場・会場 | 試験場所 | 担当学部等 |
|------------------|----------------|-----------------|
| 北海道大学試験場 | | |
| 農学部会場 | 農学部 | 農学部 |
| 人文・社会科学総合教育研究棟会場 | 人文・社会科学総合教育研究棟 | ※法学部・経済学部 |
| 理学部会場 | 理学部 | 理学部 |
| 工学部会場 | 工学部 | 工学部 |
| 高等教育推進機構A会場 | 高等教育推進機構E棟2階 | ※教育学部・文学部 |
| 高等教育推進機構B会場 | 高等教育推進機構E棟3階 | ※薬学部・歯学部 |
| 高等教育推進機構S会場 | 高等教育推進機構S棟 | ※医学部・獣医学部 |
| 高等教育推進機構N会場 | 高等教育推進機構N棟 | 実施本部・武蔵女子短大 |
| 藤女子大学試験場 | 藤女子大学 | 藤女子大学・天使大学・東海大学 |

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部。

（函館市）

| 試験場・会場 | 試験場所 | 担当学部 |
|--------------|------|------|
| 北海道大学水産学部試験場 | 水産学部 | 水産学部 |

なお、監督者説明会を平成27年1月9日（金）及び1月14日（水）に学术交流会館で開催しますので、監督者等となった方はいずれか一方に必ず出席願います。

本学一般入試個別学力検査等

1 実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、出題部、採点部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

前期日程

| 試 験 場 | 試 験 場 所 | 担 当 学 部 |
|------------------------|-----------------|------------------|
| 第1試験場（農 学 部） | 農 学 部 | 農 学 部 |
| 第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟） | 人文・社会科学総合教育研究棟 | ※文 学 部 ・ 教 育 学 部 |
| 第3試験場（理 学 部） | 理 学 部 | 理 学 部 |
| 第4試験場（工 学 部） | 工 学 部 | 工 学 部 |
| 第5試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階） | 高等教育推進機構E棟1階、2階 | ※獣 医 学 部 ・ 医 学 部 |
| 第6試験場（高等教育推進機構E棟3階） | 高等教育推進機構E棟3階 | ※歯 学 部 ・ 薬 学 部 |
| 第7試験場（保健科学研究所） | 保 健 科 学 研 究 院 | ※経 済 学 部 ・ 法 学 部 |

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部。

（上記7試験場で受験者を収容できない場合、別の試験場を設けることがある。）

（第5試験場は、高等教育推進機構大講堂、N1、N2、S1及びS2の教室を含む。）

（第5試験場の2日目は医学部が担当する。）

後期日程

| 試 験 場 | 試 験 場 所 | 担 当 学 部 |
|------------------------|-------------------------|------------------|
| 第1試験場（農 学 部） | 農 学 部 | 農 学 部 |
| 第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟） | 人文・社会科学総合教育研究棟 | ※法 学 部 ・ 経 済 学 部 |
| 第3試験場（理 学 部） | 理 学 部 | 理 学 部 |
| 第4試験場（薬 学 部） | 薬 学 部 | 薬 学 部 |
| 第5試験場（高等教育推進機構E棟3階A） | 高等教育推進機構E棟3階 | 歯 学 部 |
| 第6試験場（工 学 部） | 工 学 部 | 工 学 部 |
| 第7試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階） | 高等教育推進機構E棟1階、2階 | ※教 育 学 部 ・ 文 学 部 |
| 第8試験場（高等教育推進機構N棟） | 高 等 教 育 推 進 機 構 N 棟 | 獣 医 学 部 |
| 第9試験場（高等教育推進機構E棟3階B） | 高 等 教 育 推 進 機 構 E 棟 3 階 | 医 学 部 |
| 第10試験場（水 産 学 部） | 水 産 学 部 | 水 産 学 部 |

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部。

（第7試験場は、高等教育推進機構大講堂及びN1の教室を含む。）

なお、監督者説明会を前期日程は平成27年2月17日（火）及び2月20日（金）、後期日程は3月6日（金）及び3月10日（火）に高等教育推進機構大講堂で開催しますので、前期日程または後期日程において監督者等となった方はいずれか一方に必ず出席願います。

サステナビリティ・ウィーク2014の開催

サステナビリティ・ウィーク2014を振り返って



サステナビリティ・ウィーク2014 実行委員長
国際担当理事・副学長 上田 一郎

G8北海道洞爺湖サミット2008の開催を見据え2007年に開始した「北海道大学サステナビリティ・ウィーク」は今年で第8回を迎えました。今年は10月25日（土）から11月9日（日）の16日間に19企画、この前後数週間に開催された13企画を合わせて合計32企画を実施しました。

本学のこれまでの歩み

本学は2005年に北海道大学「持続可能な開発」国際戦略を策定し、「持続可能な開発（Sustainable Development: SD）」をテーマに掲げて各種の取り組みを行ってきました。2005年は「国連持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development: ESD）の10年」が開始された年です。国際的な動きに呼応する形で本学では各学問分野において、または分野横断的にSDもしくはESDが取り込まれてきました。その歩みの中で、G8北海道洞爺湖サミットが開催されるのと並行して、本学が中心的な役割を果たしてG8大学サミットを開催し、世界の主要な大学と共に「札幌サステナビリティ宣言」を2008年に採択しました。その宣言をひとつずつ具現化させながら本学は今日に至っています。

開催テーマ「持続可能な開発のための教育」

「国連ESDの10年」が最終年を迎える本年には、名古屋市で「ESDユネスコ世界会議」が11月10～12日に開催されたのははじめ、世界の各地で数多くの教育機関がこれまでのESDの取り組みを振り返り、将来計画について議論をしました。本学においても、サステナビリティ・ウィーク2014のテーマをESDと定め、様々な観点からESDについて、学生、市民、教育者、地域、大学、民間団体が議論をしました。

教育の未来を考える多角的な議論の実施

テーマに即して開催された16の企画は実に多様です。

「ESD国際シンポジウム－次世代のESD戦略」「専門家国際ネットワークを用いたサンニーション教育」「協定校企画 フィンランドー日本 ジョイントシンポジウム」「日露共同で行う教育プログラム開発プロジェクト」では、中国、韓国、タイ、アフリカ、北欧、ロシアの大学との協働教育の在り方について議論しました。

「サステイナブルキャンパス国際シンポジウム2014」では、大学と地域の連携について議論が行われ、「第5回サステナブル・キャンパス・コンテスト」では学生の視点から教育を提供する／受ける大学という環境に対し、改善アイデアが提案されました。

また、障害を持つ人が大学で学び、社会で働くためには教育や大学がどうあるべきかを議論した「障害をもつ大学生の就労を目指して」、環境倫理の観点から教育のあり方を議論した「第9回応用倫理国際会議：安全、サステナビリティ、人性の涵養」、文化的景観を守り継承するための教育プログラムを検討した「先住民文化遺産とツーリズム」など、持続可能な社会の創造に向けた教育のあり方を考える機会が提供されました。

ウェブ・メディアを通じた世界同時議論

サステナビリティ・ウィーク事務局は毎年、新しいことにチャレンジしてきました。今年はインターネット・フォーラム「GIFT: Global issues Forum for Tomorrow」においてUstreamやYoutubeによる動画配信のみならず、ソー

シャル・ネットワーク・システム（SNS）の一つであるFacebookを活用して、世界中の若者が動画を見ながらFacebook上で議論する機会を提供したところ、世界各地から253名もの参加を得ました。

世界から人が集まるまたは集めることを考えたときに北海道は決して地理的に優位な場所ではありません。だからこそ、ウェブ・メディアを活用して議論の場を世界へ提供することは、遠隔地に住む10代の学生や仕事に忙しい社会人が議論に加わることを可能にし、サステナビリティ・ウィークを一層「世界に開かれた議論のプラットフォーム」へと機能させることに繋がります。今後、他の企画でも積極的にウェブ・メディアを活用していくことが期待されます。

2015年に向けて

第9回のサステナビリティ・ウィークは、2015年10月24日（土）から11月8日（日）を中心に開催します。

「国連ESDの10年」は本年で終了しますが、来年9月の国連総会で「持続可能な開発目標（Sustainability Development Goals：SDGs）」が採択される予定であり、本目標の達成に向けて世界中が取り組んでいくことになります。

本学も引き続きサステナビリティ・ウィークを開催することを通じて、SDGsへ貢献してゆく所存です。皆様のご理解とご参加をお願い申し上げます。

9月28日（日） 会場：情報教育館3階

日中記者交換協定50年 日本報道、中国報道の半世紀

主催：メディア・コミュニケーション研究院附属東アジアメディア研究センター／共催：法学研究科附属高等法政教育研究センター／実施責任者：メディア・コミュニケーション研究院附属東アジアメディア研究センター センター長・教授 渡邊浩平

今から50年前、日本と中国の間に記者交換協定が締結され、日中双方の記者が互いの国に常駐するようになりました。1964年は東京オリンピックが開催された年であり、その期間中に中国が初の原爆実験を行っています。それから半世紀の月日が経ちました。本事業は、報道という視点から日本と中国の関係を振り返り、未来への示唆を得るために企画され、本学法学研究科附属高等法政教育研究センターと同志社大学大学院グローバルスタディーズ研究科の協力を得て実現しました。

なお、シンポジウムを開催した9月28日（日）は、50年前、日本の記者が香港から中国に入国した日です。

シンポジウムでは午前、東アジアメディア研究センターの渡邊浩平教授が1964年の日本メディアの中国報道を、西 茹准教授が、同年の中国メディアの日本報道の分析を発表し、桜美林大学の高井潔司教授（本学名誉教授）より、「中国報道50年の変化」が報告されました。そして、同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科の加藤千洋教授から、以上の報告に

対しコメントがなされました。

午後には、1964年の第一期特派員として北京に赴任された東京放送の大越幸夫氏と国交回復前に北京日報記者として東京に滞在された王 泰平氏の特別講演がありました。最後に、法学研究科附属高等法政教育研究センター長の鈴木 賢教授の司会のもと、加藤教授、高井教授、日本橋報社編集長の段躍中氏、メディア・コミュニケーション研究院の藤野 彰教授が加わり、ディスカッションが行われました。



渡邊教授による発表



ディスカッションの様子

9月30日（火） 会場：創成科学研究棟4FセミナールームB, C

CRC国際シンポジウム 生体分子をモチーフとした機能性分子の創製と応用

主催：触媒化学研究センター／共催：公益社団法人日本化学会北海道支部、公益社団法人高分子学会北海道支部、公益社団法人有機合成化学協会北海道支部、フロンティア化学教育研究センター／実施責任者：触媒化学研究センター 准教授 小山靖人

生体分子をキーワードとして各分野の6人のエキスパートを世界から招き、研究分野の持続的な発展と、分野間での意見交換を目的とした国際シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは触媒化学研究センターが主催し、5団体（公益社団法人日本化学会北海道支部、公益社団法人高分子学会北海道支部、公益社団法人有機合成化学協会北海道支部、本学フロンティア化学教育研究センター、北海道大学サステナビリティ・ウィーク2014）による共催支援で行いました。

シンポジウムでは、口頭発表6件（招待講演4件、特別講演2件）と学生によるポスター発表27件を行いました。招待講演者には、「生体高分子を用いる機能性材料の創製」、「生体分

子の分子認識機構の解明」、「生体分子からの有用物質創製」、「生理活性天然物の全合成」、「天然の微量成分の新しい構造決定法」、「生体分子をモチーフとした新しい触媒系の開発」という多岐にわたる分野の講演をしていただき、生体分子をめぐる研究開発の未来を議論しました。

参加者は学生88名、教職員28名で、合計116名でした。

フロンティア化学教育研究センター事務局に、授業の一貫として登録してもらったことで、予想を超える多数の学生が参加しました。イベント終了後に行ったアンケートでは、英語の授業を受けることができる貴重な体験だった、多分野の講演が刺激的だった、というような回答が多く見られました。



学生によるポスター発表



口頭発表時の様子

10月8日（水） 会場：フロンティア応用科学研究棟セミナールーム

専門家国際ネットワークを用いたサニテーション教育

主催：次世代都市代謝教育研究センター／共催：国際水環境学院（2iE）、ザンビア大学（UNZA）水資源管理センター／実施責任者：次世代都市代謝教育研究センター センター長 船水尚行

専門家の国際ネットワークを有効に利用してサニテーションに関する教育プログラムを作る取組の一環として開催しました。今年度はサニテーションに関わる社会的・文化的な面を取り上げ、3人の講師に講演をお願いしました。また、ザンビア大学の教員と学生、ブルキナファソの国際水環境学院（2iE）の教員と学生、インドネシア科学技術院の研究者を交えて、講演についての議論を行いました。加えて、サニテーションに関する教育プログラムのカリキュラムやコンテンツについ

ても意見交換を行いました。講演に参加した学生からは講義の内容に関するコメントや、教育プログラムに対する意見がありました。

今回は、サニテーションの政治学的側面、文化人類学的側面、並びに経営学的側面に関する3つの講義のe-Learnig教材を作ることができ、各国の学生からの意見を聞くこともできました。

今後は、e-Learnig教材の充実に一層努力し、サニテーションの教育プログラムの完成を目指していきます。



参加者の集合写真



船水教授による講演

10月8日(水) 会場：附属図書館本館メディアコート

STAND UP TAKE ACTION in Hokudai

主催：附属図書館(国連寄託図書館) / 共催：北大マルシェ / 実施責任者：附属図書館利用支援課 課長 豊田裕昭

附属図書館は、10月8日(水)午後6時30分から、本館メディアコートにおいて「STAND UP TAKE ACTION in Hokudai」を開催しました。

「STAND UP TAKE ACTION」とは、国連の「ミレニアム開発目標」達成のために「立ち上がる」世界的なキャンペーンです。附属図書館は、道内で唯一の国連寄託図書館に指定されており、国連及び関係機関の資料の所蔵・提供のみならず、国連の広報活動にも貢献してきました。当イベントは、その広報活動の一環として行ったものです。

当日は学生、教職員、市民の方を合わせて36名の参加がありました。まず、イベントの冒頭に図書館職員が本イベントの背景や趣旨を説明しました。

続いて、農産物生産者と消費者の交流を通して北海道の「食」や「農」について考えるイベント「北大マルシェ」

の関係者として、小林国之助教(農学研究科)と若林 諒さん(農学院修士1年)から講演がありました。

小林助教からは、北大マルシェを取りまとめる立場から、マルシェの意義や位置付けの講話、マルシェに参加している農産物生産者についてのエピソードの紹介がありました。

若林さんからは、北大マルシェ2014実行委員長としての活動を通して学んだこと、北大生をはじめ多くの大学生を取りまとめることでやりがいを得たことの発表がありました。



小林助教の発表

最後に新田孝彦附属図書館長の「スタンド・アップ!」の掛け声のもと、参加者全員で立ち上がり、国連の「ミレニアム開発目標」達成に対する意志をアピールしました。

「STAND UP TAKE ACTION」の趣旨のひとつは、国際的な課題について身近にできることから実践する点にあります。参加者に実施したアンケートの中には、「行動」や「経験」が重要であるとのことがあり、イベントの趣旨が参加者に浸透した様子がうかがわれました。



参加者全員でスタンド・アップ

10月15日(水)～19日(日) 会場：クラーク会館

CLARK THEATER 2014

主催：CLARK THEATER 2014 実行委員会 / 実施責任者：教育学部2年 川端宣志

CLARK THEATER 2014では、クラーク会館の講堂・大集会室を使用し、学生や市民に開放した期間限定の映画館を運営しました。全期間を通じて全11プログラム、20作品を上映しました。シネマコンプレックスでは公開していない短編作品や、名作と言われる白黒映画など幅広いコンテンツを提供することができました。様々なジャンルの作品を楽しんでいただくことで、商業映画館では提供することのな

い楽しさを実感していただきました。また監督をお招きしたトークショーをご覧いただくことで、制作現場の話や、制作者の思いを知っていただく機会を設けることができました。北大カフェプロジェクトや、本学映画研究会とも協力し、足を運んだお客様だけではなく、協力いただいた他団体の学生スタッフにも映像の世界に興味を持つ一助としての場を提供することができました。

今後も私たち映画館プロジェクトは映像文化を今以上に発展させるべく、本学での常設映画館の創設に向けて活動を続けていきます。その中で現代社会が内包する問題を様々な切り口で訴えていき、また教育機関としての大学に常設映画館が存在することの可能性を私たちの活動を通して訴えていければと思います。



第2会場の様子



トークショーの様子



メンバーの集合写真

10月25日(土) 会場：学術交流会館

第5回ESD国際シンポジウム

主催：北海道大学／共催：ソウル国立大学校、高麗大学校、北京師範大学、チュラロンコン大学、環境省北海道環境パートナーシップオフィス、酪農学園大学／実施責任者：教育学研究院 教授 水野眞佐夫

10月25日(土)に、「第5回 ESDシンポジウム 次世代のESD戦略」を開催しました。シンポジウムの全体会はインターネットで世界へ生配信され、参加者数は165名(学内49名、学外48名、オンライン参加68名)と、多くの参加を得ることができました。

本シンポジウムは教育学研究院が過去4回にわたり開催してきた「ESD国際シンポジウム」を拡大して開催しました。北海道・アジアにおけるESD推進の10年間を総括し、次代の教育の在り方について展望を得ることを目的に、日中韓タイの海外協定校教員、道内ユネスコスクール教員・研究者、環境省機関、また学生による分科会を開催し、北海道とアジアの次世代ESDについて多角的かつ総合的な情報提供と議論を行う場を設けました。

シンポジウムは上田一郎理事・副学長による開催挨拶、教育学研究院の小内透院長による趣旨説明によって開

始しました。

基調講演には、国際連合大学高等研究所(UNU-IAS)において指導的立場におられるESD研究者で、国際的なESD情勢について熟知される世界的な第一人者のマリオ・タブカノン客員教授をお招きし、「ESD10年の総括」と題してご講演いただきました。また、高麗大学校師範大学の韓龍震学長から「ESDの将来展望」、本学教育学研究院の河口明人教授から「ESDの再構築」と題した講演が行われました。

その後、4つの分科会「ESD Campus Asiaの成果と展望」、「北海道ユネスコ・スクールコロキウム」、「ESD学生フォーラム」、「大学と地域社会が協力するESD」が行われました。

最後に、再び大講堂に全参加者が集まり、総括を行い、各分科会の代表者が登壇し、それぞれが行った議論について報告しました。

シンポジウム終了後に実施したアン



基調講演後の質疑応答の様子

ケートでは、「様々な角度からESDについて知ることができて良かった」「国際的な視野を持つことの重要性がわかった」「北海道のRCE(Regional Center of Expertise: ESD推進の地域拠点)設立の動向が興味深かった」との回答が多くみられました。開会から閉会まで通しての参加者も多く、全体で議論への認識を深めてくれたことに、関係者一同、大きな満足感を得ました。様々な立場でESDの発展に携わる参加者が一堂に会し今後の展望を議論できた、大変貴重な機会となりました。

10月25日(土)～11月9日(日) 会場：学術交流会館、共用レクリエーションエリア

雑紙削減プロジェクトPAPERSPACE～身近なところから見つめなおそう～

主催：PAPERSPACE／実施責任者：工学院 修士課程2年 尾門あいり

私たちの活動の目的は、サステナブルキャンパス実現に向けて先進的な取り組みを行っている本学と、短い期間しかキャンパスで過ごさない学生、本学を訪れる市民・観光客といった大学利用者との乖離を埋め、両者の理解や認識を高めるきっかけづくりです。

本行事は、企画・準備・本番まで、すべて学生(本学で建築を学ぶ学部2年生から修士2年生の学生を中心に33人)で行い、本学のサステナブルキャンパス推進を知るきっかけとして、構内から大量に排出される雑紙を活用し、私たちが普段どれだけ無意識に雑紙を排出しているかを実際に体感できる“空間作品”として再構成・提示しました。また、作品に活用した雑

紙は、北大農場で牛の敷料・バイオマス原料として再活用・処理し、構内で排出されたゴミを構内で処理する、というサステナブルなシステムモデルの構築・提案も行いました。

期間中、800人程度の来場者があり、うち、7割程度が学生でした。来場者からは作品に対する意見とともに、「こういうアート展示を大学でやってほしいと思っていた!(学生)」「学生と触れ合えて面白い!(観光客)」「こんなに楽しい公園は初めて!(幼稚園児)」との意見もいただきました。また、企画側の学生からも、「普段の授業で実際の空間を作ることができないので楽しい」「色々な人の捉え方を知ることができて面白い」「これ

からもやりたい」との意欲的な感想も得ることができ、自分たちの作品を外部の人々に見てもらい反応を体感できたことに達成感を感じることができたようです。新聞社1社、テレビ局2局から取材を受け、その反響から、実際に足を運んでいない人たちにも私たちの活動を認識してもらえたことを実感しています。

今後も学生の活動がキャンパス内の様々な場所で行われることにより、より魅力的で付加価値の高いサステナブルキャンパス空間の形成、豊かな自然環境の積極的な活用や保全、活動を行う人々の人間関係の醸成などにつながっていくことと思います。私たちの活動がそのようなキャンパスの創造に

貢献できるよう、次年度以降も継続していきたいと考えています。



紅葉を見に来た市民と学生の交流



説明に耳を傾ける市民の方と製作中の学生

10月26日（日）会場：学術交流会館

障害をもつ大学生の就労をめざして

主催：特別修学支援室／実施責任者：教育学研究院 准教授 松田康子

5名のシンポジストを招いて、特別修学支援室主催シンポジウム「障害をもつ大学生の就労をめざして」を開催しました。

肢体不自由のあるシンポジスト、ろうのシンポジスト、自閉症をもつシンポジストからは、大学で学び社会で働く経験を語っていただきました。就労支援事業所のシンポジストからは地域の社会資源について、発表していただきました。障害をもつ人を積極的に雇用している企業のシンポジストからは、企業での支援体制を中心にお話し

いただきました。参加者は約160名で、アンケートの集計（回収率60%）によると、参加内訳は学生が30%を占め、次いで教育関係者とその他（福祉関係者等）がそれぞれ21.7%、市民14.1%となりました。参加者からは「当事者の話を聴くことができ、勉強になった」「今後も続けてほしい」「他の障害への理解を深めたいので、次の企画に期待する」等の感想がありました。

特別修学支援室は、障害のある学生に対して合理的配慮に基づいた学びの

環境整備を行う組織です。平成28年度より障害者差別解消法施行が決定している中、本シンポジウムにおいて「働く」という普遍的なテーマを共有できたことは非常に意義深いものでした。



講演の様子

10月28日（火）会場：国際本部大会議室

北大×JICA連携企画 青年海外協力隊トークイベント ～持続可能な社会をつくる日本のボランティア～

主催：独立行政法人国際協力機構 北海道国際センター／共催：国際本部／実施責任者：国際本部国際連携課 国際協力マネージャー 榎本 宏

本イベントは、JICA青年海外協力隊経験者による体験談と、教育関係者による「持続可能な開発のための教育」をテーマとしたパネルトークという2部構成で行いました。

前半の体験談は本学OGで、青年海外協力隊としてアフリカのマラウイ共和国で理数科教師として現地の高等学校で活動された、新江梨佳氏にお話ししていただきました。

同国は水道普及率8%、電気普及率9%、平均寿命47歳という国である反面、そこで新氏が見たものはアフリカのステレオタイプとなっている「貧しさ・悲惨さ・苦しみ」ではなく、現地

の人々の「笑顔・エネルギー・可能性」だったと言います。新氏は、普段の授業に加え、サイエンスクラブの設立、マラウイ共和国の科学コンテストへの参加、同僚教員の授業・研修のサポートを通し、生徒や子どもたちが可能性を伸ばせる機会を作ること、同僚の先生が力を生かせる場を作ることを目標に活動しました。「自分たちでできる！」と目覚めた生徒の中には、卒業後、自分の村で風力発電を作る人も出たそうです。

後半のパネルトークには、新氏に加え北広島市西部中学校の渡邊 圭先生をお招きし、「これからの教育」と

「海外の経験をそこにどう生かすことができるか」についてお話していただきました。

お2人がこれからの教育に必要なこととして共に言及されたのは「受け身からの脱却」と「周囲の人と積極的に関わっていく力」でした。そのための具体的な方法として、地域に目を向け、地域の課題を大人と共に考え行動できるような教育という提案がありました。

アンケートでは、「日本で過ごしていて、日本の常識は世界の常識だと思っていましたが、今回のお話で視野を広げることができました」「今の日本

は何もなくとも生きていける時代です。途上国は不便ですが、逆に生きる方法を考える人間になる気がしました」「本当の内なる力を引き出すにはどんな教育が必要なのか考えさせられます」などのコメントが寄せられ、これからの教育について考える機会を提供できたと感じました。

今回は講義形式で終わってしまいましたが、次回は参加者と自由に意見を交換できる参加型のイベントにできるように工夫を凝らしたいと思います。



現地で行った実験を披露する新氏



マラウイでの経験を伝える新氏

10月30日(木) 会場：学術交流会館講堂

北海道／防災・減災リレーシンポジウム—冬の防災・危機管理を考える—

主催：公共政策大学院／共催：一般社団法人国立大学協会、株式会社北海道新聞社／実施責任者：公共政策大学院 特任教授 高松 泰

10月30日(木)午後1時30分より、学術交流会館講堂にて「北海道／防災・減災リレーシンポジウム—冬の防災・危機管理を考える—」を行いました。このシンポジウムは、「防災・日本再生シンポジウム」行事の一環として国立大学協会の助成を得て企画したもので、北見工業大学(10月17日)、室蘭工業大学(10月23日)での会議に続く、包括的な議論の場として開催しました。

シンポジウム前半では、理学研究院の谷岡勇市郎教授、工学研究院の岡田成幸教授、前気象庁長官の羽鳥光彦氏による基調講演がありました。北海道において注意すべき地震発生のメカニズムや、積雪寒冷な気候に配慮した住宅が防災の面でも優れた特性を持っていること、また近年の地球温暖化・異常気象の傾向を受け、気象庁が取り組んでいる防災気象情報発信の改善・活

用等について、各分野最前線の専門的知見が報告されました。

後半は、農学研究院の南 哲行特任教授、北海道開発局の高橋公浩部長、北海道庁の加藤 聡危機管理監、札幌市役所の相原重則危機管理対策室長にも加わっていただき、パネルディスカッションを行いました。異常気象時における情報提供や避難勧告発令のあり方、「帰宅困難者対策」など行政面からの話題提供、それに基づくディスカッションに続き、会場からの発言も

得て、地域住民の意識向上や北海道の防災教育に関する優れた取組みが紹介されました。

リレーシンポジウム全体では、基調講演8件、延べ時間10時間を超え、産業界・自治体関係者、一般市民の方々等、500人以上の方に参加いただくことができました。ご協力くださった関係諸機関の皆様にお礼を申し上げますとともに、参加者からいただいた意見や要望を参考に、今後も継続した取組みとできるよう努めていきます。



パネルディスカッションにおける意見交換



パネルディスカッション全景

11月1日（土）会場：学術交流会館

サステナビリティウィーク北大・地球研合同ワークショップ 「地域や人びとに寄り添う研究の在り方とは？」

主催：工学研究院／共催：総合地球環境学研究所／実施責任者：工学研究院 教授 船水尚行

地球規模での環境問題については、いまだに具体的な解決に向けた活動は実行されているとは言い難い状況です。この背景には、研究と社会の乖離があるとされています。では、社会と科学の連携とは何でしょうか？この議論を深めることが今後の環境研究のあり方を決めるうえで極めて重要なカギと考えました。本ワークショップは、農学、水産学、工学、政治学、地域研究などの専門家が集い、私たちの研究と社会とがどのように連携できるのかについて、これまで進められてきている研究を基に意見交換を行いました。

そして、「社会に寄り添う研究」とは何か、どうすれば研究と社会の乖離を防ぐことができるかについて意見交換を行いました。

ワークショップでは6件の発表を行い、その後、総合討論を約1時間30分にわたって行いました。これらの発表・討論から結論が出るようなテーマではありませんが、「人びとの暮らしを中心に据える」、「資源の利用者が守ろうとしないと自然は守れない」、「人々の目線による地道なフィールド調査」、「人々の価値の連鎖を中心にする」等の意見が出されました。



発表の様子



総合討論の様子

11月1日（土）・2日（日） 会場：人文・社会科学総合教育研究棟 W409室

第9回応用倫理国際会議「安全、サステナビリティ、人性の涵養～気候変動に対する道德義務～」

主催：文学研究科応用倫理研究教育センター／実施責任者：文学研究科 准教授 眞嶋俊造

第9回応用倫理国際会議では、ニューヨーク大学のデール・ジェイミソン教授を含む3名の全体講演と50件の一般発表を行いました。応用倫理国際会議は2007年に始まり、以降毎年行っています。今回の会議のテーマは「安全、サステナビリティ、人性の涵養」でした。

ジェイミソン教授は環境倫理における世界的な権威であり、サステナビリティの倫理についての研究の第一人者です。ジェイミソン教授の講演は、“Moral Responsibility for Climate Change”と題し、気候変動に対する私たち市民の道德義務を倫理的に問うという内容でした。本講演は、気候変動の問題が私たちの倫理的な行動に

かかっていることを指摘し、倫理的判断と倫理的行動をとる重要性を私たちに突きつける内容でした。講演は特に予備知識を必要としない平易な語り口で進められ、なぜ私たちが気候変動に対して道德的義務を負うのかという理由がわかり易く説明されました。また、その責任というものが私たちに実際の行動を求めるということが説明されました。この点において、本講演はまさにサステナビリティ・ウィークの行事としてふさわしいものであったと考えられます。

次年度以降においても、サステナビリティの倫理を応用倫理国際会議の主要なテーマのひとつとしていく基盤を作ることができました。



全体講演の様子



一般発表での質疑応答

11月2日（日） 会場：人文・社会科学総合教育研究棟 W409室

特別講演会「サステナビリティの倫理」

主催：文学研究科応用倫理研究教育センター／実施責任者：文学研究科 准教授 眞嶋俊造

本講演会は、ニューヨーク大学教授のデール・ジェイミソン教授をお招きし、サステナビリティの倫理についてお話しいただきました。講演の題目は、“Sustainability and Beyond”でした。講演の趣旨は以下のとおりです。

私たちの多くはサステナビリティが大事であり、重要であるということを知っています。しかし、私たちは「なぜ、どうしてサステナビリティが大事であり、重要なのか？」という問いについて考える機会はありません。私たちがサステナビリティを実現していくことの価値、またサステナブルな社会を構築していくことの重要性に

ついて現実の重みをもって認識することができます。そして、そのような認識は、サステナビリティの実現、サステナブルな社会の構築に向けて実践していく動機づけとなるのです。勿論、サステナビリティには問題が伴わないわけではありません。その一例として、世代間の正義と世代内の正義との間のトレードオフを挙げることができます。つまり、希少資源の分配を私たち現在世代の人々の間の地球規模での正義（グローバルな正義）と、私たち現在世代と私たちの子孫にあたる未来世代との間の正義（世代間の正

義）はトレードオフ関係にあるということです。とはいえ、まずはサステナビリティの道徳的重要性を理解し、さらに議論を進展させていくことに意義があるのです。

本講演会は「第9回応用倫理国際会議」のポスト・カンファレンス・セミナーという位置づけでもあり、有機的に連動した行事として行うことができました。次年度以降においても、サステナビリティの倫理の講演会を継続的に開催していきたいと考えています。



ジェイミソン教授の講演



11月3日（月・祝） 会場：保健科学研究院

保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」

主催：保健科学研究院／実施責任者：保健科学研究院 教授 浅賀忠義

保健科学研究院の公開講座は「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」というテーマのもと、3名の講師が専門分野の紹介を行い、63名の参加がありました。

第1限目は「環境と健康－次世代への影響を考える」と題して、齋藤 健教授が環境変化の健康影響、特に世代を超えた影響について解説しました。

第2限目は「“光”を通して今見えること、そして将来出来ること ～医療へ、そして日常へ～」と題して、尾崎倫孝教授が現代のストレス社会を強くしなやかに生きるために、体に優しい“光”が私たちの生活にどのように貢献できるかについて解説しました。

第3限目は「パーキンソン病のリハ

ビリテーションについて」と題して、高橋光彦准教授がパーキンソン病のリハビリテーションについて、最新の知見も含め平易に解説し、デモンストレーションを行いました。

講演者はサステナビリティ・ウィーク2014のテーマである「持続可能な開発のための教育」をキーワードとして、



挨拶をする伊達広行研究院長

保健科学の視点から詳しくかつわかりやすく解説しました。

参加者からは概ね好評を博し、様々な質問があり、3人の各講師はわかりやすく丁寧に答えていました。

今後も毎年、その時の時代を反映するようなテーマを設定して、公開講座を開催していく予定です。



尾崎教授の話に聞き入る参加者

11月4日（火） 会場：学術交流会館小講堂

RECCA北海道 北海道における気候変動とその適応ワークショップ

主催：工学研究院／後援：公益社団法人日本気象学会北海道支部／実施責任者：工学研究院 准教授 山田朋人

平成22年度から文部科学省気候変動適応研究推進プログラム（RECCA）の一環で「北海道を対象とする総合的ダウンスケール手法の開発と適用（通称RECCA北海道、代表：工学研究院山田朋人）」を実施しています。気候変動への対策は温室効果ガスの排出量の抑制を目的とする緩和策と気候変動下における持続可能な発展を目的とする適応策に大別されます。緩和策は国もしくは地球規模で取り組むものであるのに対して、適応策は各地域の特徴や状況を考慮しなければなりません。欧米各国では適応策の更新を数年に1度の頻度で義務づけるようになりつつありますが、我が国では環境省が中心となり来年度の閣議決定を目指している段階です。本ワークショップは、今後、北海道が取るべき適応策について、近年の豪雨災害や気候変動が農業分野に与える影響を併せて議論することを目的に開催しました。

RECCA北海道の研究成果として、複数の全球気候モデルと領域気候モデルによる世界の気温が2℃上昇した際の北海道の気温、降雨、積雪深等の特徴を紹介しました。その後、気候モデル、将来予測手法、さらにはRECCA

北海道によって予測された将来データをウェブ上で公開する「近未来ビューワ」についての説明を行いました。

基調講演では、札幌管区気象台長の高野清治氏から本年9月に道央を襲った線状降水帯による豪雨の気象特性及び豪雨発生前後の各行政機関の取り組みを含めた内容のお話があり、室蘭工業大学大学院教授の中津川誠氏からは水文現象の変化が積雪地域に及ぼす影響について、水資源の観点から最新の研究成果をご紹介いただきました。北海道農業研究センター上席研究員の廣田知良氏からは気候変動が北海道の農業活動に与える影響の正負両面について主要品目ごとに興味深い研究成果をご説明いただきました。最後に以上の講演者とRECCA北海道の参画者である理学研究院の稲津 将准教授と地球環境科学研究院の佐藤友徳准教授を含めた6名によるパネルディスカッションが実施され、豪雨、豪雪、水資源、農業の観点から北海道が取り組むべき適応策について活発な議論が行われました。

本ワークショップの参加者は161人であり、大学関係者、学生、関係分野の実務者に加え、多くの一般市民の

方々にもご参加いただきました。イベント終了後に実施したアンケートでは、「今後の北海道における気候や各分野の適応策を考えるのに役立った」との回答が多くみられました。



パネルディスカッションの様子



多くの参加者で埋まった会場

11月5日（水）～7日（金） 会場：ラップランド大学（フィンランド）

協定校企画 フィンランドー日本 ジョイントシンポジウム

主催：ラップランド大学、オウル大学、北海道大学、札幌市立大学／実施責任者：国際本部国際支援課 課長 島竜一郎

11月5日（水）から7日（金）までの3日間の日程で、ラップランド大学（フィンランド）において、「フィンランドー日本 ジョイントシンポジウム-Innovation and Well-being through Multidisciplinary Dialogue-」を開催し、ラップランド大学、オウル大学、札幌市立大学、本学を中心に、約80名の参加がありました。

初日のオープニングセレモニーでは、ラップランド大学のマウリ・ユラコトラ学長の歓迎挨拶の後、オウル大学の

ラウリ・ラユネン学長、及び本学の上田一郎理事・副学長から、来賓挨拶がありました。

その後、観光・ヘルスケア・都市デザイン等、テーマごとに5つの分科会に分かれて、2日間の議論や事例発表等が行われました。今回すべての分科会で「サービス・デザイン形式」という統一した手法が取り入れられました。サービス・デザイン形式とは、サービス・デザイン^{*1}の過程で開発された、多様なステークホルダーから意

見を効率的に聴取するための対話方式です。サービス・デザインが、ホスト校であるラップランド大学の研究を特徴づける学際融合分野のひとつであることから、分科会運営の共通手法として採用されました。参加者は、慣れない手法に最初は戸惑いつつも、普段はあまり接点がない異分野の研究者とも交流する等、良い感触を得ている様子でした。

最終日には、各参加大学からの基調講演が行われました。続いて行われた

パネルディスカッションでも、参加者同士の活発な意見交換が進められ、本シンポジウムは成功裡に終了することができました。

今後は、本シンポジウムをきっかけとして、本学とフィンランドの協定大学、及び北極圏大学※2との間での研究者交流、共同研究の実施等、さらなる連携強化が期待されています。なお、

来年の本シンポジウムは札幌で開催する予定です。

※1 サービス・デザイン (Service Design)
サービス・デザインとは、あるサービスが供給者から需要者へ最も効果的に提供される仕組みの設計のこと。情報ネットワークシステムの構築、行政サービスの向上等にも応用されている。

※2 北極圏大学 (University of the Arctic) カナダ、デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、ロシア、スウェーデン、及びアメリカ (Arctic8) を中心とした北方圏における課題 (環境問題、先住民、サステナビリティなど) にかかる教育・研究を推進するための教育機関ネットワーク。



シンポジウム関係者と意見交換する
上田理事・副学長 (右から3人目)



基調講演の様子



パネルディスカッションの様子

11月6日 (木) 会場：学術交流会館

経済学研究科 REBN シンポジウム —北海道における新時代の「ものづくり」：IT×農業の試み—

主催：経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センター／共催：一般社団法人日本生産管理学会・北海道東北支部／
実施責任者：経済学研究科 教授 平本健太

11月6日 (木)、学術交流会館大講堂において、経済学研究科地域経済経営ネットワーク研究センター、一般社団法人日本生産管理学会・北海道東北支部共催、札幌コワーキングサポーターズ後援によるシンポジウム「北海道における新時代のものづくり：IT×農業の試み」を開催しました。

本シンポジウムでは、慶應義塾大学の田中浩也准教授、株式会社イーラボ・エクスペリエンスの島村 博氏、株式会社SUSUBOX・FabLabつくばの相部範之氏の3名を講師にお迎えし、それぞれご専門の立場から講演いただきました。具体的には、「ウェブ社会からファブ社会へ」「Fab社会の到来：食と農業のかしこい暮らし方」「FabLabつくばの歩み」に関する、刺激的で有意義な内容でした。

シンポジウムの後半では、経済学研究科の平本健太教授をコーディネーターとするパネルディスカッションが行われました。パネルセッションでは、フロアのオーディエンスから提出された多くの質問に基づいて、講師の先生方とのディスカッションを行い、問題点や解決策を探りました。メイカムーブメントやファブ社会におい

て、われわれの価値観がどのように変わっていくのか、ファブ社会が到来しつつある現状において、北海道はいかなるポジションでものづくりに関わっていけるのか、ITとのコラボレーションによる北海道農業や酪農業についての可能性はいかなるものかなど、新しい時代のものづくりを巡り、熱心で濃密な議論が展開されました。



会場の様子



パネルディスカッションの様子

11月8日(土) 会場：フロンティア応用科学研究棟(インターネット配信)

GiFT2014 -Global Issues Forum for Tomorrow- 実施報告

主催：北海道大学／実施責任者：国際本部長 上田一郎

サステナビリティ・ウィークの主要行事として毎年開催しているインターネット・フォーラム「GiFT」は今年で4回目を迎えました。今年は「教育」をテーマに5人の本学教職員がプレゼンターとして参加し、これからの教育の在り方、研究の在り方、大学の在り方などについて最新の研究成果と共に課題解決の展望を各自12分間、英語で講演しました。山口佳三総長によるプレゼンテーションでは、スペシャル対談として鈴木 章名誉教授にも登壇いただきました。

インターネットを駆使した海外広報を進化させようと毎年新たなチャレン

ジを重ねているGiFTは今年、世界各地に住む大学生、高校生、高校教師とインターネットでつながり、本学のプレゼンテーションをパブリック・ビューイング(同時視聴)し、感想をFacebookでやり取りする双方向フォーラムを実現させました。2時間のGiFT番組への参加者は253人で、インドネシア、マレーシア、英国、スウェーデン、カナダ、アメリカ、ナイジェリアなど世界各国から大学生・高校生問わず参加があり、交わされたメッセージは約200件に及びました。今年は新たなマーケティング戦術として、GiFT番組視聴者の中から3名を

本学に招く「北大体験ツアー2015」応募キャンペーンを展開し、世界中の学生の興味を集めることができました。

配信以降、YouTube及びUstreamで閲覧可能となったアーカイブ動画は、公開から1か月間弱で日本はもちろんのこと世界各地から1800回以上(昨年のおよそ2倍)視聴され、その数は毎日増えています。

来年度もサステナビリティ・ウィークの主要行事として開催する予定です。

◆GiFT ウェブサイト

<http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/gift/>

講演者と講演タイトル(意訳)

北海道大学 総長 山口佳三

“Towards the Resolution of Global Issues” (世界の課題解決に向けて)

理学研究院 教授 高橋幸弘

“Micro-satellite Provides Solutions on Earth” (マイクロ人工衛星が地球を救う)

高等教育推進機構 特任准教授 大津珠子

“Science Visionaries Change Our Future” (科学技術コミュニケーションが未来を変える)

工学研究院 准教授 渡邊直子

“Learning in the Field: Environmental Radiation in Fukushima” (福島環境放射能の現場での学び)

サステナブルキャンパス推進本部 コーディネーター 池上真紀

“Sustainable Campus as a Research Field”

(研究分野としてのサステナブル・キャンパス)

司会：留学生センター 特任准教授 Emma Cook

GiFTとは、Global Issues Forum for Tomorrowの頭文字を取ったものです。これは、世界規模の課題を解決し持続可能な社会を実現しようと励む人々が集う機会を、インターネット上に提供するイベントです。同時に、これから専門分野を決めて本格的に研究を開始しようとする高校生や学士課程の学生に対し、最新の研究成果を紹介し、世界の課題の解決のために研究を共にしようと呼びかける機会でもあります。



山口総長(右)と鈴木名誉教授の対談の様子

11月8日(土) 会場：学術交流会館

安全でサステナブルな社会の土台をつくるには?—社会基盤学からの多様な視点—

主催：工学部／実施責任者：工学研究院 助教 Michael HENRY

本シンポジウムは、自然環境の変化がもたらす影響を予測すると共に、安全、安心、健康に人々が暮らせる社会の基盤を構築するための学問である社会基盤学が、持続可能な社会の構築に

どのように貢献しているかを紹介するイベントとして開催したものです。社会の持続可能な発展について長く研究している堺 孝司教授による基調講演後、工学部社会基盤学コース、国土政

策学コースにおいてコンクリート工学、地盤工学、海岸工学、水文学、交通計画学を専門として研究を行う若手教員7名が10分間ずつ各専門分野と社会の持続可能性との関わりについて講

演を行いました。参加者の6割は大学生や大学院生であり、メモを取りながら熱心に話を聞いていました。

イベント終了後に実施したアンケートでは「色々な分野からの視点がわかりやすく解説されており面白かった」、「社会基盤学を学ぶ上で環境、経済、社会との関わりを考える重要性がわかった」等の意見が多く見られ、参加者は概ね満足していたようです。一方「もっと大々的に告知を行った方がいい」との意見も多く寄せられ、来年のイベント時にはPR方法を工夫す

るべきとの課題も明らかになりました。我々を取り巻く様々な自然現象のメカニズムを解明し、持続可能な社会の構築に貢献する社会基盤学の取り組み



講演の様子

を、広く一般に知ってもらうために、来年以降も本イベントを継続していきたいと思います。



講演者の集合写真

11月8日(土) 会場：北海道立道民活動センター(かでの2・7)

北大×JICA連携企画 国際協力人材セミナー in 北海道

主催：JICA 国際協力人材部 PARTNER事務局／共催：国際本部／実施責任者：国際本部国際連携課 国際協力マネージャー 榎本 宏

11月8日(土)、国際協力の現場で活躍を目指す人材に対する関連情報の提供と国際協力活動への参加促進を目的とした「国際協力人材セミナー in 北海道」を実施しました。137名の参加があり、うち約65名が学生でした。

参加者全員に対して実施したアンケートは115名から回収し、112名より「非常に満足」または「満足」の回答を得るなど、非常に満足度の高いセミナーを提供することができたと考えています。

参加者からは、「国際協力に関する様々な立場の方からお話を伺うことが

でき、多角的に具体的に自身のキャリアプランを考える良い情報をたくさんいただきました」「普段関わることができない方たちの話を聴くことができて貴重な時間を過ごすことができました。今後も定期的にも実施していただきたいです」「国際協力人材セミナーは将来国際機関で働きたいと思っている私にとってすごく良い機会となりました。ただ、このようなセミナーが東京に集中し、札幌で聞く機会が少ないのは残念です。今後、数を増やすことはできないのでしょうか」などのコメントが寄せられました。

当日は、開場と同時に多数の人が詰めかけ、またセミナー終了後も講師の方に熱心に質問する参加者が多数見受けられるなど、参加者の熱意に触れることができました。



講演の様子

プログラム及び各セッションの概要

- (1) 「国際協力のキャリアを目指す方へ」と題した国際協力業界の動向説明及び国際協力の仕事全般の解説
- (2) JICA人材の紹介(公募案件)及び北海道在住の公募型企画調査員の体験談
- (3) 「ODAを活用した中小企業海外展開支援事業」についての解説と事例紹介及び日東建設株式会社からナイジェリアにおける取り組み事業紹介
- (4) 「NGOで働くということ」をテーマに、一般財団法人北海道国際交流センター所属のNGO相談員の講演
- (5) 「開発コンサルタント業界の概要」、「開発コンサルタントに求められる人材像」をテーマに、それぞれ一般社団法人海外コンサルティング企業協会(ECFA)及び同協会の会員企業であるアイ・シーネット株式会社の講演
- (6) 外務省国際機関人事センターより「国際公務員になるために」、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)より「国際機関の仕事について」の講演

11月9日（日） 会場：学術交流会館

第5回学生企画 サステナブル・キャンパス・コンテスト—サステナブルな明日への架け橋—

主催：SCSD（The Student Council for Sustainable Development in Hokkaido University）／
共催：サステナブルキャンパス推進本部／実施責任者：理学部2年 小山田伸明

本コンテストは今年度で5回目となり、本学で活動するあるぼら、北大畑くらぶ、雑紙削減プロジェクトの3組の学生が大学をサステナブルにするプロジェクトを提案しました。今年度初の取り組みとして、本イベントの1か月ほど前に中間報告会を実施し、SCSDや教職員、提案者と共に議論し、案のブラッシュアップを行いました。そのため、本イベントでは非常に質の高い提案がなされました。

今回は接戦の末、畑くらぶが最優秀賞を受賞し、内容は全学の学生が任意で使えるような農場を作ろうというものでした。全学農場を通して学生が体

験によって、普段おろそかにしがちな“食”について真剣に考える機会を作ることができるというメリットに加え、その際のアシストや情報発信の方法までをカバーして考えられていたことが評価されました。このプロジェクトはSCSDと共に畑くらぶが実行して行く予定で、状況経過はFacebookなどで発信していきます。

今後もサステナブル・キャンパス・コンテストを学生の意見を大学へ届ける窓口としての機能を充実させていくために、今後も知名度の向上や応募しやすい環境整備などを進めていきます。



北大畑くらぶ（最優秀賞）の発表



授賞時風景

11月17日（月） 会場：学術交流会館

国際シンポジウム 環境と健康と科学コミュニケーション

主催：環境健康科学研究教育センター／共催：保健科学研究院、医学研究科、地球環境科学研究院／
実施責任者：環境健康科学研究教育センター 特任教授 岸 玲子

「環境と健康と科学コミュニケーション」のテーマのもと、近年の環境変化が人々、特に子どもの健康に与える影響を題材とした講演を行い、持続可能な社会に向けた、教育や科学コミュニケーションにおける課題について、諸外国の事例を交えて参加者の知識を深め、ディスカッションを実施する機会としました。

最初に三上直之准教授（高等教育推進機構）が、「科学コミュニケーションの話始める前に～これだけは押さえておきたい三つの視座～」と題して、リスク社会に生きる我々に今なぜコミュニケーションが必要か、コミュニケーションの目的の多様性、またコミュニケーションへのステークホルダーの参加が欠かせない点に関して講演しました。次いで韓国仁荷大学の Jonghan Leem教授が、「子ども・社会がより健康になるための、韓国におけるリスクコミュニケーション戦略」

と題して、韓国における子どもの健康に関する問題とリスクコミュニケーションについて講演しました。同じく子どもの研究に関して、伊藤佐知子特任助教（環境健康科学研究教育センター）が、「北海道に住む人々のよりよい生活環境を目指して～北海道スタディの成果から～」と題して、環境化学物質曝露による影響に関する「環境と子どもの健康に関する北海道スタディ」の紹介と、研究結果に関する地域社会とのコミュニケーションのあり方について講演しました。Sharon J. B. Hanley特任助教（医学研究科）は、「科学コミュニケーションの技術：子宮頸癌ワクチンの受容が、英国・豪州・日本で異なるのは何故か」と題して、子宮頸癌ワクチン接種導入に当たり、イギリス政府が行った啓発・教育・リスクコミュニケーションの事例を紹介しました。最後に大島寿美子教授（北星学園大学）より、「受け手か

らみた健康研究と成果発信～市民やジャーナリズムの視点から」と題して、科学研究者による情報発信を受け手である市民やメディアが理解を共有する重要性や手法について講演がありました。

続くパネルディスカッションでは、参加者からの質問や意見を交え、司会の山内太郎教授（保健科学研究院）、田中俊逸教授（地球環境科学研究院）及び講演者による討論を行いました。研究成果発信においては、Leem教授による発表にみられた①科学的証拠（エビデンス）の確立、②正直・率直な情報の開示、③政策決定の協力者としての国民参加の必要、④国民の不安の共有、といった4つの科学コミュニケーション戦略に見習う点が多くありました。最後に、北海道スタディ研究の代表者でもある岸 玲子副センター長から、これまでも参加者とのコミュニケーションを継続的に行ってきたこと、今後、北海道の地域のデータで世

界に貢献していくことの重要性に関する発言があり閉会となりました。

参加者のアンケートからは、「新たな視点を得た」「海外の事情を知ることができて有意義だった」「研究者が市民とのコミュニケーションに取り組んでいることを知ることができた」といったコメントが得られ、今後も引き続き科学コミュニケーションに関する討論の場を提供する意義を再認識するシンポジウムとなりました。



三上准教授による講演



パネルディスカッションの様子

11月18日(火) 会場：工学部 A101会議室

北大アフリカ研究会シンポ アフリカで活躍する北大の研究者たちⅡ ～アフリカに展開する北大研究ネットワーク～

主催：北海道大学アフリカ研究会／共催：日本アフリカ学会北海道支部／実施責任者：工学研究院 特任助教 牛島 健

目覚ましい発展を遂げようとしているアフリカ。しかし、ひとたび現地に入れば、貧困、政治、環境をはじめ様々な問題が山積し、しかもそれらは複雑に絡まりあっていることがわかります。アフリカのサステナビリティを議論するには、分野横断的な学際的アプローチが求められます。本学では平成24年4月、アフリカ研究に関わっている研究者が集まり、北大アフリカ研究会(HURNAC)を立ち上げました。様々な専門をもつ研究者がネットワークを作り、一筋縄ではいかないアフリカの課題に取り組もうとしています。本年度からは、日本アフリカ学会北海道支部との連携が実現し、本行事も共催となっています。

昨年に引き続き、第2回となる本イベントでは、観光学高等研究センター、経済学研究科、保健科学研究

院、獣医学研究科に属するメンバーが、アフリカでの取り組みをそれぞれの視点から紹介しました。専門的な話題・内容でしたが、どの講演者もわかりやすい言葉で伝える努力をしていたので、参加者には十分に理解していただけたようです。参加者は合計25名で、そのうち学生7名を含む15名が学内関係者で、他は市民の方(7名)や行政関係者(1名)でした。こじんまりとした雰囲気の中、通常のHURNAC会合時のように突っ込んだ議論が一般参加者と展開できたことは、価値があると感じました。

アンケート(有効回答21件)では、「あなたの今後の活動に有益となりそうですか?」の問いに対し、10名が「大変そう思う」、11名が「そう思う」と回答していて、参加者の満足度は高かったものと思われます。また、

昨年度のアンケートで「アフリカ出身者(留学生など)による発表も聞くことができる」という趣旨の意見を複数いただいていたのですが、今回、経済学研究科に所属するコンゴ人学生の発表が実現したことも大きな成果でした。

今後とも、こうしたイベントを通じてHURNACの取り組みを大学内外にアピールできるよう努めていきます。



西山徳明教授(観光学高等研究センター)による発表の様子

第25回北海道大学教育ワークショップ（FD）を開催

全学の新任教員を対象とした今年度2回目の教育ワークショップを11月14日（金）・15日（土）の両日、北広島市の北広島クラッセホテルを会場に合宿形式で開催しました。

このワークショップは、本学のFD（ファカルティ・ディベロップメント）の一環として、平成10年度から毎年実施しているもので、平成19年度からは、春と秋の年2回実施しています。今回は「学生主体型授業の設計」をテーマに開催しました。本学の教員27名と他大学等から5名、計32名の参加があり、仮想的な授業科目を発案し、そのシラバスを作成することにより、教育の基礎を理解し、新しい教育手法を身に付けることを目指しました。

開催にあたり、情報教育館にて新田孝彦理事・副学長から挨拶があった後、バスで北広島へ移動し、早速5グループに分かれて「授業へのモチベーション」に関するワークショップが行われ、その後、シラバスを作成するメインプログラムに入りました。

このプログラムでは、課題のレクチャー、グループ討論と成果の発表、全体討論をセットにして4回行い、シ

ラバスを具体的に作り上げていく過程を通して、授業の目的・内容・評価方法の3つの基本的要素を体験的に学びました。

また、各セットの間には自身のシラバスの校正と講師による添削、授業での悩みに関する質疑応答、教育総長賞受賞者の地球環境科学研究院の大原雅教授による講演が行われました。特に大原教授の講演は非常に好評で、講演後は予定時間を超えるほどの活発な質疑応答が繰り返されました。

最後に、高等教育推進機構の細川敏幸教授から受講者へ教育ワークショップ修了証書が手渡されました。

今回作成された仮想科目のシラバスは、講師の間でもレベルが高いとの評価があり、参加者が熱意を持って本ワークショップに臨んだことがうかがえました。また、事後アンケートでは手応えを感じたと答える参加者が多く、「今後の授業作成に関して大いに参考になった」という声も聞かれるなど、大変有意義なワークショップとなりました。

（高等教育推進機構）



グループ討論



課題成果発表



修了証書授与

第4回北海道大学教育改善マネジメントワークショップを開催

高等教育推進機構では、12月5日（金）に、同機構の会議室を会場に、中堅教員を対象として、第4回教育改善マネジメントワークショップを開催しました。

本ワークショップは、これまで本学で実施してきた新任教員向けFD「教育ワークショップ」の経験をもとに開発されたプログラムで、主に教育改善マネジメント能力の習得を目的とした研修です。

第4回となる今回は「学生の自習時間を増やす方法」をメインテーマとして、学生調査*による学生の自習時間などのデータを用いてエビデンスに基

づいた議論を進めながら、具体的な教育改善手法の基礎を身につけることを目指しました。

開催にあたり、新田孝彦理事・副学長からの挨拶の後、世話人と参加者による自己紹介に続き、高等教育推進機構の細川敏幸教授がワークショップの趣旨を説明しました。本ワークショップに参加した本学教員16名、他大学教員2名は、3つのグループに分かれて行ったグループ討論で活発な議論を交わしながら、具体的な教育改善計画を作成することにより、教育改革の実行方法等について学びました。

ワークショップを終えて、参加者か

らは、「所属・分野の異なる教員と意見や情報を交換し、議論することができた」、「教育に関して考えるまとまった時間が得られた」、「当日は資料を見る時間が足りなかったため、事前に資料の提供があると良かったのでは」等の感想や意見が寄せられました。

*文部科学省大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制（IRネットワーク）による学士課程教育の質保証」で実施している、学生の学習状況や学生生活に関する調査。

（高等教育推進機構）

主なプログラム

| | |
|----------|---------------------------|
| ミニ講義1 | 「このワークショップの趣旨」 |
| ミニ講義2 | 「課題の把握とニーズ・背景・課題の解析と意志決定」 |
| ワークショップ1 | 「課題の背景・ニーズ・関係者・期限の把握」 |
| ミニ講義3 | 「目標管理とチームワークの方法」 |
| ワークショップ2 | 「課題解決への組織的目標設定」 |
| ミニ講義4 | 「チームによる目標達成への行動計画・役割分担」 |
| ワークショップ3 | 「行動計画・役割分担の設計」 |
| ミニ講義5 | 「成果確認と評価・発展」 |



ワークショップ参加者



グループ討論の様子

第16回北大・九大合同フロンティア・セミナーを開催

11月12日（水）、ステーションコンファレンス東京（東京都千代田区丸の内）において、「食と健康」をテーマに第16回北大・九大合同フロンティア・セミナーを開催しました。

本セミナーは、本学と九州大学が現在進めている研究について、広く産業界、社会人、同窓生の皆様に知っていただき、各分野の方々との連携・交流を深めるため平成20年度から合同で開催しています。

第16回目を迎えた今回のセミナーは、様々な分野の方や多くの同窓生からの申込があり、約180名の方が参加されました。

最初に登壇した本学の木曾良信特任教授（産学連携本部）は、「世界に冠たる長寿国日本、それを支える日本食の魅力を探る」と題し、日本人の主食である「ごはん」と、魚や肉に多く含まれる「高度不飽和脂肪酸」を中心に、最近の研究成果を紹介するなど日本食の魅力について講演を行いました。

次に、九州大学の都甲 潔教授（システム情報科学研究院）は、「味と匂いを目で見る」と題し、五感の中でも主観性の強い味覚と臭覚を他人に正確に伝える手段として研究開発された味覚センサと匂いセンサについて、具体例を挙げてご講演いただきました。

パネルディスカッションでは、本学の小林国之助教（農学研究院）がコーディネーターとなり、講演者の木曾特任教授と都甲教授がパネリストとなって、講演内容を中心に参加者から寄せられた質問への回答を交えながら進められ、盛会のうちに終了しました。

なお、平成27年1月10日（土）には都市センターホテル（東京都千代田区平河町）で第10回九州大学・北海道大学合同活動報告会を開催します。

（研究推進部研究振興企画課）



講演を行う木曾特任教授



パネルディスカッションの様子



会場風景

研究者のためのスキルアップセミナー③「恋愛下手？それじゃ科学は伝わらない～何が人をその気にさせるのか～」を開催

11月27日（木），人文・社会科学総合教育研究棟において「研究者のためのスキルアップセミナー③」を開催しました。

本セミナーは，研究大学強化促進事業の一環として，大学力強化推進本部と創成研究機構の共催で実施するセミナーの第3弾となります。

今回は，独立行政法人物質・材料研究機構（NIMS）企画部門広報室チーム長の小林隆司氏に「恋愛下手？それじゃ科学は伝わらない～何が人をその

気にさせるのか～」と題して，専門家以外の方に研究内容を魅力的に伝えるための表現方法，テクニックについて，ご講演いただきました。

教職員を中心とする90名の参加者は，小林氏の話に真剣に耳を傾け，また，時折笑顔もこぼれるなど，講演は終始和やかな雰囲気で行われました。講演後に行われた全員参加型の実習・発表では，活発な質問・意見が出され，会場は熱気に包まれていました。

アンケートでは，参加者のほとんど

が「満足」という回答であったほか，「大変有意義だった」「頻繁に開催してほしい」などの意見も数多く寄せられ，スキルアップセミナーへの関心の高さがうかがえました。

大学力強化推進本部，創成研究機構では，これらの意見を基に，今後の継続的なセミナー開催について検討していきたいと考えています。

（創成研究機構）



会場の様子



小林氏による講演



実習の様子



人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで 「キャリアパス多様化支援セミナーⅠ（交渉学）」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、10月17日（金）に百年記念会館にて「キャリアパス多様化支援セミナーⅠ（交渉学）」を開催しました。

キャリアパス多様化支援セミナーとは、若手研究者のキャリアパスの多様化について考えるプログラムです。博士のキャリア選択の多様性について、本セミナーや企業研究所視察等のプログラムにより、具体的に体験的に学びます。今回の交渉学は今までとは少し趣向を変え、社会に出てもアカデミアに残っても必要となる手法としての「交渉」について、論理的にケースを用いた学習及びロールプレイを行いました。

今回の交渉学（単位認定）では、「成功確率を上げる方法論（基礎編）」と題し、金沢工業大学の一色正彦客員教授、合同会社IT教育研究所代表の田上正範氏、武田薬品工業株式会社の前井由香里氏の3名に講師やTAとし

て参加いただき実施しました。

若手研究者の参加登録は36名で、初めての開催にも関わらず、交渉学に対する関心の高さを感じました。

交渉学のプログラムは企業の法務部門や知財部門が遭遇する多くの企業間の係争や行政との交渉に対応するために、米国の法科大学院から生まれた学問であり、最近では日本の各大学のリーディングプログラムにも多く採用されています。

開催後のアンケートでも、「交渉において、いかに準備が大切なのかわかった。お互いの妥協点を探すのではなく、お互いが成長できる点を探すことの重要性を知った」、「日常のあらゆる所に交渉の力が活きると思い受講しました。今まで交渉というと戦いのイメージがありましたが、実際やってみると、自分と相手とで協力して解決策を見出す場のような印象を受けました」との前向きなコメントが数多く出

されました。

また講師の先生方からは、「自己効力感、学習に対する親和性と学習内容に対する自信を示す数値だが、北大受講生の値は分岐値を大きく超えており、学習した内容に共感し、より学習したいという意欲が高い。社会人と同等である」との高い評価を得ることができました。

人材育成本部では以上の活動に加えて、赤い糸会、Advanced COSA、キャリアマネジメントセミナー、企業での長期インターンシップ等を通して、これまで以上に若手研究者の実践力を高める事業に注力していきますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、興味のある方は人材育成本部のホームページをぜひご覧ください。

◆ <http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



樋口直樹特任教授による人材育成本部活動の紹介



金沢工業大学 一色氏



合同会社IT教育研究所 田上氏



武田薬品工業株式会社 前井氏



受講風景



ロールプレイの様子

人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで 「Advanced COSA (2)」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、11月19日(水)・20日(木)に学術交流会館にて「Advanced COSA (2)」を開催しました。

Advanced COSAとは、科学者のための科学経営コース(Advanced COSA: Course of Science Administration)の略称であり、企業の第一線で活躍する研究所長や部長級の方を講師としてお招きし、大学院博士課程における教育や研究経験が、企業における研究や事業活動においてどのように活かされているのか、また現在の企業が博士に対して何を期待しているのか等、事例を交えて講義していただきます。

お招きしている講師は、基礎科学を学んだ研究者が就職し、活躍している企業において研究や事業の第一線を経験し、現在も企業研究のあり方や基礎研究の進め方と事業の方向性等の課題について日々取り組まれている方々です。また、平成20年度からは企業研究を身近に感じてもらうため、本学の先

輩博士である若手～中堅研究者も講師としてお招きしています。

この講義を通して、大学院生が、企業での活動はもとより、アカデミアでの活動においても参考となる企業研究の現状について理解を深め、社会における基礎科学の重要性を認識し、視野を拡大することを目指します。

今回のAdvanced COSA (2)では、日本IBM株式会社技術部長の片岡利枝子氏、住友林業株式会社森林・緑化研究センター長の中村健太郎氏、酔鯨酒造株式会社の取締役・工場長の能勢晶氏、若手先輩として味の素株式会社イノベーション研究所 フロンティア研究所の正瑞 文氏(本学工学院博士課程、平成23年修了)の4名の方々に企業での研究概要に続き、ご自身の経験や若手研究者に期待することについてご講演いただきました。

博士研究員や大学院生の参加は2日間で延べ93名となり、数多くの学生が熱心に聴講していました。

開催後の参加者のアンケートでも、「自分たちの専攻学問とは異なる分野で働く方のお話を聞くことにより、異なる視点から働くことについて学ぶことができた」「モノづくりの現場の様子がより具体的にイメージできるようになった」との嬉しいコメントが数多く寄せられました。

人材育成本部では以上の活動に加えて、赤い糸会、キャリアパス多様化支援セミナー、企業での長期インターンシップ等を通して、これまで以上に博士研究員や大学院生の実践力を高める事業に注力していきますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、興味のある方は人材育成本部のホームページをぜひご覧ください。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

(人材育成本部)



日本IBM株式会社 片岡氏



住友林業株式会社 中村氏



酔鯨酒造株式会社 能勢氏



味の素株式会社 正瑞氏



質疑応答



懇談風景

ビジネスEXPO「第28回北海道 技術・ビジネス交流会」に出展



開会のテープカット（右端：川端和重理事・副学長）



本学ブース展示の様子

11月6日（木）・7日（金），アセスサッポロ（札幌市白石区）にて「ビジネスEXPO」が開催され，本学も出展しました。

本イベントは，ビジネスマッチングを求める企業，中小企業への技術移転や技術連携，共同開発に興味を持つ大学・試験研究機関等に対して，新技術・新商品を「発見」できる魅力的な場所の提供を行うことを目的としてい

ます。本年は，開催テーマを「連携！北海道の未来へ」とし，広域的な企業間ネットワーク形成を意識したイベント構成となっていました。

今回は，出展者が359社・機関，来場者が2日間で20,028名となり，過去最多の規模となりました。

本学のブースでは，医学研究科の白土博樹教授の「陽子線治療センター」，工学研究院の船水尚行教授の「価値を

創出するサンテーション（コンポストトイレ）」，「人材育成本部の取り組み」，「オープンファシリティ」などの紹介を行い，多くの訪問者にお越しいただきました。

中小企業や中小企業支援機関等の皆様との交流がますます深まった一日となりました。

（産学連携本部）

「シーズ・ニーズマッチングフェア with 金融機関」を実施

11月6日（木）・7日（金），アセスサッポロ（札幌市白石区）にて「シーズ・ニーズマッチングフェア with 金融機関」（ビジネスEXPOと同時開催）を実施しました。本マッチングイベントは昨年度から実施しており，本年度で2回目の開催となります。

本イベントは，道内の研究機関（大学・高等専門学校・公設試験研究機関）がAll Hokkaido体制として自らの技術シーズを企業等に紹介し，共同研究発展への契機とすることを目的としています。また，地域の金融機関との協力関係を構築することも重要視しており，産学官の力を結集し，将来の地域の核となる産業を興すことが期待されています。

今回は，本学，室蘭工業大学，北見工業大学，旭川工業高等専門学校，釧

路工業高等専門学校，苫小牧工業高等専門学校，函館工業高等専門学校，地方独立行政法人北海道立総合研究機構，公益財団法人函館地域産業振興財団，北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会が主催となり，14件の技術シーズの発表を行いました。

本学からは，北方生物圏フィールド科学センターの荒木 肇教授による「自然エネルギーで生産された野菜の活用」，工学研究院の牛島 健特任助教による「途上国における衛生（トイレ）改善のためのビジネスモデル」の発表を行いました。また，創成研究機構共用機器管理センター共用機器部門の江藤典子特任准教授より，「北海道大学オープンファシリティ」の紹介を行いました。

ここから将来の地域産業の核となる

共同研究が創られるよう努力していきます。

（産学連携本部）



荒木教授



牛島特任助教

■ 部局ニュース

会計専門職大学院が開設10周年記念シンポジウムを開催

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）は、11月17日（月）午後2時から学術交流会館大講堂において「北海道の企業会計をどうする？～IFRSの適用を見据えて～」というテーマでシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは会計専門職大学院の開設10周年を記念し、日本公認会計士協会北海道会の共催、札幌証券取引所、一般社団法人日本内部監査協会の後援で開催しました。

最初に、「わが国におけるIFRSの動向」と題して日本公認会計士協会副会長である関根愛子氏による講演が行われました。IFRS*の適用に関する昨今の状況をヨーロッパやアメリカの動向を踏まえた上で、我が国の対応状況や今後の見通し等も含めて詳細な説明がなされました。

続くパネルディスカッションでは、「北海道の企業会計をどうする？～IFRSの適用を見据えて～」というテーマで、本研究科の久保淳司准教授をモデレーターとして、また日本公認会計士協会の関根副会長、日本公認会計士協会北海道会の富樫正浩副会長、日本公認会計士協会自主規制・業務本部の増山俊和公認会計士、本学の米山祐司会計専門職大学院長をパネリストとして討論が行われました。

関根氏は、IFRSを導入している我が国の企業の状況、富樫氏は、道内企業の現状と適用可能性、増山氏は、IFRSに関する公認会計士の対応状況、米山院長は、会計専門職大学院での教育の状況等に基づいて活発な議論を交わしました。今後、道内経済・道内企業を活性化するためには、公認会

計士・企業・学生や社会人への教育という多面的なアプローチが重要になるとの考えが示されました。

当日は、公認会計士、北海道の企業関係者、会計専門職大学院及び経済学部 of 学生と教員を中心に85名が参加し、盛況のうちに終了しました。

会計専門職大学院では、関係機関と協力し、今後もこのようなシンポジウムやセミナーを開催していきたいと考えています。

*IFRS

International Financial Reporting Standards : 国際財務報告基準

（経済学研究科・経済学部）



パネルディスカッション



日本公認会計士協会 関根副会長

触媒化学研究センターが情報発信型国際シンポジウムを開催

本国際シンポジウムは、文部科学省の共同利用・共同研究拠点の認定を受けている触媒化学研究センターが、拠点活動の一環として「日本が誇る先駆的研究成果を“日本の研究機関の主導で”海外において情報発信する」というコンセプトの下で企画され、平成17年度のアーヘン工科大学（ドイツ）、

平成18年度のパデュー大学（アメリカ）、平成19年度のリヨン大学（フランス）、平成20年度のスウェーデン王立科学アカデミー（スウェーデン）、平成21年度のもスクワ大学（ロシア）、平成22年度の北京大学（中国）、平成23年度のヨーク大学（カナダ）、平成24年度のケルン大学（ドイツ）及びス

トラスブル大学（フランス）、平成25年度のプラハ・カレル大学（チェコ）及びエモリー大学（アメリカ）に続くもので、平成26年度については、10月4日（土）にシカゴ大学（アメリカ）、10月30日（木）・31日（金）にストックホルム大学（スウェーデン）で開催しました。

10月4日 CRC International Symposium in Chicago “Asymmetric C-C Bond Formation & Organometallics”（於：アメリカ・シカゴ大学）

会場となったシカゴ大学のKent Hallには80名を超える参加者が集まり、活発な議論が展開されました。シンポジウムの主催者と開催校を代表してそれぞれ、触媒化学研究センターの高橋保教授とシカゴ大学のRichard Jordan教授より挨拶がありました。

午前の部は、2010年ノーベル化学賞受賞者である根岸英一先生の講演から始まり、ヨーク大学（カナダ）のMichael Organ教授、独立行政法人理化学研究所主任研究員の侯 召民先生が続いて講演を行いました。

午後の部では、公益財団法人微生物化学研究会 微生物化学研究所・所長の柴崎正勝教授、シンガポール科学技術研究庁 材料研究・工学研究所の林民生教授、シカゴ大学の山本 尚教授の日本人研究者に続いて、休憩を挟んでノースウェスタン大学のKarl Scheidt教授とルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン（ドイツ）のPaul Knochel教授が講演を行いました。

最後に共催であるシカゴ大学の山本教授より閉会の挨拶があり、本シンポジウムは盛況のうちに終了となりました。



オープニング



講演の様子



集合写真



聴衆の様子

10月30日・31日 CRC-SU Joint International Symposium in Stockholm “Chemical Theory for Complex Systems—Interplay between Theory and Experiments: New Trends in Catalysis”（於：スウェーデン・ストックホルム大学）

会場となったストックホルム大学のArrhenius laboratoryには100名を超える参加者が集まり、活発な論議が展開されました。

はじめに、ストックホルム大学のFahmi Himo教授と、触媒化学研究センターの朝倉清高センター長から挨拶

があり、シンポジウム開幕が宣言されました。

2日間にわたり行われた講演会では、京都大学の諸熊奎治リサーチフェロー（大学共同利用機関法人自然科学研究機構 分子科学研究所名誉教授）、首都大学東京の春田正毅教授、スイス

連邦工科大学チューリッヒ校（スイス）のMichele Parrinello教授、ストックホルム大学（スウェーデン）のPer E. M. Siegbahn教授をはじめ、この分野で先駆的な役割を果たしている特定非営利活動法人量子化学研究協会の中辻 博理事長（京都大学名誉教授）、

京都大学の榎 茂好リサーチリーダー（京都大学名誉教授）、永瀬 茂リサーチフェロー（大学共同利用機関法人自然科学研究機構 分子科学研究所名誉教授）、岡山大学の沈 建仁教授、本学触媒化学研究センターの福岡淳教授、朝倉センター長ら国内研究者と、Fritz-Haber研究所（ドイツ）directorのHans-Joachim Freund博士、カーディフ大学（英国）のGraham Hutchings教授、フンボルト大学（ドイツ）のJoachim Sauer教授、ストックホルム大学（スウェーデン）のJan-Erling Bäckvall教授、Himo教授、ウブサラ

大学（スウェーデン）のJohan Åqvist教授、Joseph Samec博士、Marcus Lundberg博士、ブリストル大学（英国）のAdrian Mulholland教授ら欧州研究者を講師として招待しました。また、1日目の最後にはポスターセッションが開催され、学生を含む一般参加者が、30件近くの研究発表を行うなど、活発な議論が行われました。シンポジウムでは、全ての講演に対して多くの質問が寄せられるなど、盛況のうちに閉幕となりました。

また、バンケットには在スウェーデン日本国大使館より森元誠二大使、独

立行政法人日本学術振興会ストックホルムオフィスより阿久津秀雄センター長、川窪百合子副センター長を来賓としてお迎えしました。日本-スウェーデン-欧州間の研究者交流に加えて、様々なレベルでの交流がなされました。



講演の様子



集合写真



聴衆の様子



バンケットを終えて

シカゴ大学で開催されたシンポジウムには、触媒化学研究センターから、高橋教授、宋 志毅助教、技術職員3名及び北キャンパス合同事務部事務職員1名が、ストックホルム大学で開催されたシンポジウムには、触媒化学研究センターの朝倉センター長、福岡教授、長谷川淳也教授、中山 哲准教授、技術職員3名及び北キャンパス合

同事務部事務職員1名が参加し、会場となった大学のスタッフと共に運営にあたりました。

今回、2つのCRC International Symposiumの開催にあたり、シカゴ大学・ストックホルム大学の関係者の方々には、会場の手配・設営、シンポジウム開催の周知等、多大なるご尽力をいただきました。誌上を借りて感謝

申し上げます。

触媒化学研究拠点として認定を受けている触媒化学研究センターは、拠点への研究者コミュニティからの要請に応えるべく、今後も情報発信型シンポジウム等の活動を継続する予定です。

（触媒化学研究センター）

触媒化学研究センターが7th Negishi-Brown Lecturesを パデュー大学と共催

10月6日（月）・7日（火）に、アメリカのパデュー大学において、7th Negishi-Brown Lecturesを開催しました。

1日目の6日（月）は、はじめにパデュー大学科学部長のJeff Roberts教授と本学の高橋 保教授より挨拶があり、平成22年ノーベル化学賞受賞者である根岸英一先生（パデュー大学教授、本学特別招聘教授）の講演で幕を開けました。その後、ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン（ドイツ）のPaul Knochel教授、ヨーク大学（カナダ）のMichael Organ教授、パ

デュー大学のMahdi Abu-Omar教授が講演を行い、最後に高橋教授の講演で1日目のシンポジウムは終了となりました。

2日目の7日（火）は、午前の部でイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（アメリカ）のM.Christina White教授、パデュー大学のP.V.Ramachandran教授、Arun Ghosh教授、Shiqing Xu博士、シンガポール科学技術研究庁 材料研究・工学研究所の林 民生教授が講演を行いました。

午後の部は、パデュー大学根岸研究

室のAkimichi Oda氏の講演で始まり、イリノイ大学シカゴ校のVladimir Gevorgyan教授、独立行政法人理化学研究所主任研究員の侯 召民先生、パデュー大学のTong Ren教授が講演を行いました。

最後に共催のパデュー大学のRamachandran教授の閉会宣言のもと、2日間にわたるシンポジウムは幕を閉じました。

（触媒化学研究センター）



オープニング



講演の様子



聴衆の様子



記念写真

平成26年度低温科学研究所公開講座 「低温の魅力～低温科学の最前線」を実施

低温科学研究所では、9月29日から11月17日までの毎週月曜日、全6回にわたって、公開講座「低温の魅力～低温科学の最前線～」を実施しました。

低温科学研究所の公開講座は昨年度から開講し、今回は2回目の開催となります。今年度はグローバルな地球温

暖化問題からミクロな氷結晶の実験まで、海洋物理学・気象学・生物学・結晶成長学と様々な分野にわたる広大な低温科学の魅力について各講師が語りました。

実施にあたっては20代から70代まで、延べ68名の幅広い層の方々に参加

いただき、好評のうちに終了しました。今回の参加者の方々からの意見を取り入れ、来年度以降もより良い公開講座を目指していきたいと思ひます。

(低温科学研究所)

講師と講座タイトル

第1回：9月29日（月）

講師：三寺 史夫 教授 「地球環境を決める海洋大循環」

第2回：10月6日（月）

講師：豊田 威信 助教 「海水の形が語ること」

第3回：10月20日（月）

講師：渡辺 力 教授 「風の不思議－暑さ寒さも風次第？」

第4回：10月27日（月）

講師：隅田 明洋 准教授 「寒冷域の森林を維持する樹木の科学」

第5回：11月10日（月）

講師：落合 正則 准教授 「冬の昆虫 ～環境ストレスから身を守る彼らの方法～」

第6回：11月17日（月）

講師：古川 義純 特任教授 「宇宙実験でわかった氷の結晶成長の秘密」



受講風景（第3回）



受講風景（第6回）

観光学高等研究センター公開講座「連続対談：観光創造の最前線～教員とゲストが語る観光研究の魅力と課題～」(全5回)を開催

観光学高等研究センターでは平成18年の開設以来、既存の観光学の学問領域にとらわれず、常に地域社会や産業界など実社会のニーズを踏まえた最新の研究やプロジェクトに挑戦してきました。今回の講座では、観光学高等研究センターの教員が最新の研究・実践テーマを取り上げ、10月23日から11月20日までの毎週木曜日、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において、毎回関係するゲストを招いて対談を行いました。

第1回目は、「地域づくりにおけるよそ者のダイナミズム」と題して、数田麻実教授が吉元美穂氏(特定非営利活動法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ事務局長)と、地域づくりにおけるよそ者の役割や効果について議論を行いました。

第2回目は、「広告・旅行会社のプランナーと考える観光・地域振興の仕事」と題し、内田純一准教授が、原田亜紀氏(株式会社JTB北海道)、林純也氏(株式会社電通北海道)と、北海道新幹線の開業効果を高めるためのプロモーション戦略や地域ブランド戦略について話し合いました。

第3回目は、「文化遺産を千年先に



石森氏(初代観光学高等研究センター長、北海道開拓記念館館長)と西山教授(右)による新旧センター長対談

引き継ぐには！」と題し、真板昭夫客員教授が、下休場千秋氏(大阪芸術大学教授)と、アフリカ・カメルーンの事例を中心に、文化遺産継承のポイントについて解説しました。

第4回目は、「『昭和の旅と娯楽』再考」と題し、山村高淑教授が、妙木忍氏(国際本部留学生センター特任助教)と、秘宝館誕生の秘密とその後の展開を中心事例に、戦後昭和における観光の大衆化の本質に迫りました。

そして最終回の第5回目では、「観光をめぐる『不都合な真実』とは？」と題して、西山徳明教授(現観光学高

等研究センター長)と石森秀三氏(初代観光学高等研究センター長、北海道開拓記念館館長)が、新旧センター長対談を行いました。

いずれの回においても、ゲスト講師と弊センター教員との間で、観光創造の研究・実践の最前線について、会場の皆様も巻き込んだ熱い議論が行われました。受講いただいた皆様、ゲスト講師としてお越しいただいた先生方に厚くお礼を申し上げます。

(観光学高等研究センター)

薬学部で第17回生涯教育特別講座を開催



講演に耳を傾ける参加者

薬学部では、薬学部同窓生を含む医療関係及び関連領域の仕事に従事される方を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的として生涯教育特別講座を実施しています。

11月22日（土）、薬学部臨床薬学講義室において生涯教育特別講座・秋季

講演会を開催し、薬学部同窓生や薬学部学生・教職員など84名が参加しました。

はじめに、株式会社ツルハ 調剤運営本部の長井貴之氏より「地域包括ケアシステムとドラッグストアの在宅業務」について、次いで株式会社クリオネ 北17条薬局の相馬恵理子氏より「医薬分業 66%を超えて～薬剤性肝

障害を回避すべく、訪問看護師と連携した症例」についてご講演いただきました。最後に、北海道大学病院リハビリテーション科の池田 聡准教授より「リハビリテーションと薬物療法」について講演がありました。

高齢化が進む中、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するため、地域包括ケアシステムの構築が進められており、とりわけ薬剤師の在宅医療支援やリハビリテーションを含む居宅療養は重要な役割を担っています。会場では数多くの質問が寄せられ、活発な議論が行われました。参加者からは、「薬剤師が患者さんの居宅でも活躍していることが理解できました」「脳卒中の治療などリハビリテーション医学が大切な役割を果たしていることがわかりました」などの感想が多数寄せられました。

（薬学研究院・薬学部）

平成26年度薬学部成績優秀賞授与式を挙行

薬学部では、11月25日（火）に本学部第2講義室において、平成26年度北海道大学薬学部成績優秀賞授与式を行いました。

この賞は「GPA制度の導入に伴い、学業が優秀な学生を顕彰し、学生の向学心を喚起する」ことを目的として、平成17年度以降に入学した学部3年次生を対象として設けられたもので、今回で8回目の授与式となります。

今年度は、学部専門科目の成績が特

に優秀な3名が受賞者に選ばれました。

授与式では、29名の薬学部教員が見守るなか、南 雅文薬学部長から表彰状と記念品が1名ずつに授与されました。

成績優秀賞受賞者は薬学部・薬学研究院のホームページに掲載する予定です。

今後この賞が本学部学生の向学心をより一層喚起するものとなることを期待しています。

（薬学研究院・薬学部）



成績優秀者と南学部長（左から2人目）



表彰状を授与される成績優秀者



法学研究科・法学部・公共政策大学院で留学生パーティを開催



集合写真

法学研究科・法学部・公共政策大学院では、11月13日（木）午後6時から、外国人留学生とサポーター・チューター学生や交換留学経験者、関係教職員を対象として、「留学生パーティ」を開催しました。

全学的にも外国人留学生の入学者は年々増加していますが、現在、法学研究科・法学部では、公共政策大学院を

含め92名の外国人留学生が在籍しています。本パーティは、今年度新たに入学した留学生に早く大学生活に慣れてもらうこと、苦勞を抱えながら勉学に励んでいる在学生の状況を知ってもらうこと、及び学生間の交流を広げてもらうことを目的として開催しました。

当日は、外国人留学生、日本人学生及び関係教職員ら約45名が出席し、留



参加学生が交流する様子

学生と留学経験のある日本人学生が司会を務めました。パーティは亘理 格法学研究科長のビデオレターで始まり、参加者は自己紹介やビンゴゲームなどを通じて大いに楽しみ、互いに親交を深めました。

（法学研究科・法学部）

「法科大学院に関するアドバイザリーグループ会議」を開催

11月25日（火）に、東京都千代田区の学士会館において、「第13回法科大学院に関するアドバイザリーグループ会議」を開催しました。

本会議は、法曹界、産業界、教育界等各界において現在中核を成して活躍されている法学部卒業生の方で構成されており、毎年、法科大学院のみならず、法学研究科及び法学部に対して助言をいただいています。

第13回となる今回は、10名の同会議メンバーと、亘理 格法学研究科長及び小名木明宏法科大学院長が出席しました。

会議では、亘理法学研究科長及び小名木法科大学院長から本学の近況が報告された後、法学研究科の今後の在り方等について熱の入った活発かつ貴重

な意見交換及び提言がなされ、盛会のうちに終了しました。

（法学研究科・法学部）



会議の様子

農学研究院で平成26年度第1回、第2回FD研修会を開催

農学研究院では、10月30日（木）午後3時より農学部W109講義室にて、保健センターのカウンセラー武田弘子氏を招き、平成26年度第1回FD研修会「学生の自殺予防対策」を開催しました。受講生として教職員40名が参加しました。

冒頭の挨拶では、丸谷知己研究院長が大学におけるFD研修会の重要性とともに教職員の学生の自殺予防対策に対する知識向上の意義について述べました。講演では、北大生の自殺の現状を過去のデータから解説し、自殺のリスク因子や対人関係理論などについて説明がありました。武田氏は、保健センターが過去に行ったカウンセリング事例から、保健センター・病院・教員・学生の相互の連携の必要性と有効性を強調しました。

講演終了後には、活発な質疑応答が行われ、この問題に対する教職員の関心の高さがうかがえました。アンケートの結果からは、保健センター側の情報公開体制について不満の声や、講演

中に推奨されていたような対応をする時間がとれない、などの回答もありましたが、おおむね「参考になった」という意見が大半を占めました。

今回の研修会は、今後開催予定の「ゲートキーパー講習会」と併せて、部局におけるメンタルヘルスの対処能力向上に大きな寄与を果たすことと思われれます。

また、11月13日（木）午後3時から、農学部W109室にて、平成26年度第2回FD研修会「研究倫理－学問上の誠実さ－」を開催しました。受講生として、教員、学生の合計41名が参加しました。

データの改ざんや盗作・「コピー・アンド・ペースト」といった研究倫理が問われる事件が、ここ1年くらいの間立て続けに起こりました。意図的な改ざんや盗作は論外としても、気づかないところで研究倫理に抵触する行為をしてしまう恐れもあります。研究倫理とは何か改めて整理して、意図せず不正を行ったと判断されないための努力が

必要です。

そこで今回、文学研究科応用倫理研究教育センターの眞嶋俊造准教授を講師に、本FD研修会を開催しました。

専門家は非専門家から高い信頼を寄せられるが故に高い倫理観を持つことが求められること、研究倫理に抵触するかもしれないグレーゾーンの行為について、どれが研究倫理にかなないどれがもとののか、研究者自身で判断できるようにすることが必要で、そのために「倫理テスト」という方法が紹介されました。研修会の後半では仮想事例を用いて実際に「倫理テスト」を使用し、倫理的にとるべき行為を参加者全員で検討しました。

第1回FD研修会にて講演いただいた武田氏、保健センター並びに、第2回同研修会にて講演いただいた眞嶋准教授には、ここに改めて感謝申し上げます。

（農学院・農学研究院・農学部）



保健センター武田氏



眞嶋准教授



第1回参加者



第2回参加者

「脳科学研究教育センター合宿研修」の開催



参加者の集合写真

11月29日（土）・30日（日）に、北広島クラッセホテルで脳科学研究教育センターの合宿研修を行いました。昨年度から、多くの関係者が参加しやすいように札幌近郊で開催しています。

研修には、吉岡充弘センター長をはじめ、文学、教育学、理学、生命科学、医学、歯学、薬学、保健科学の各研究科・研究院・学部属する教員14名、大学院生16名、学部生6名、事務職員2名の計38名が参加しました。2日間の研修では、口頭による大学院生及び学部生の研究発表（研修Ⅰ～Ⅲ）、若手教員や基幹教員の講演（研修Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ）、センター長講話と海外研修の報告会（研修Ⅴ）を行いまし

た。

大学院生の発表では、ようやく研究が本格化しはじめたばかりの修士課程1年生だけでなく、昨年も合宿に参加した修士課程2年生や博士課程履修生の研究成果を見聞することができ、昨年と比べて研究内容が深化していく様子を感じ取ることができました。発表会では大変活発な質疑応答があり、各発表とも予定時間を超えて議論が続きました。また、吉岡センター長からは、「科学者をめざす君たちへ」というタイトルの講話があり、昨今問題になっている科学者のモラルや責務をはじめ、研究成果の配分や特許に至るまで、研究者として知っておくべき様々

な事項について話がありました。これらの研修を通して脳科学研究への理解を深めると同時に、深夜に及ぶ懇親会も含め、部局を超えた学生と教員間の実質的な交流を行いました。

この合宿研修は、とかく所属研究室の研究テーマや研究手法に偏りがちな大学院教育を、その垣根を越えて融合させることを目指す本センターの最も重要な活動のひとつです。昨年からの試行している本専攻の修了生と学部生の参加や札幌近郊のホテルでの開催も大変好評で、来年度もより多くの関係者の参加を期待しています。

（脳科学研究教育センター）



研修会の様子



質疑応答の様子



懇親会の様子

歯学研究科で「動物供養祭」を挙行

歯学研究科では、11月27日（木）午後4時30分から、学部会議室において、動物供養祭を執り行いました。供養祭は、過去1年間に歯学教育・研究のため実験に供された動物（ラット、マウス計2,182体）への感謝と追悼のために毎年実施しており、教職員、学

生等の動物実験関係者約30人が参列しました。

供養祭では、最初に横山敦郎歯学研究科長から挨拶があり、次いで動物実験委員会委員長の柴田健一郎教授から、歯学研究の進歩に尊い命を捧げてくださった多数の実験動物の御霊の安

らかなることを願う旨の「祭文」が捧げられ、最後に参列者全員により献花が行われました。

（歯学研究科・歯学部）



参列者に挨拶する横山研究科長



「祭文」を読み上げる柴田委員長



献花する参列者

薬学部で救急救命講習を開催

薬学部では、10月29日（水）・30日（木）に、安全教育の一環として、薬学部2年次学生82名を対象に救急救命講習を開催しました。

両日とも、札幌市北消防署幌北出張所の協力により、約1時間半の救命入門コースの講習を実施しました。

派遣された消防署職員から救急救命に関する基本的な対処方法等の説明を受けた後、グループに分かれて、人工

呼吸や心臓マッサージの行い方、AED（自動体外式除細動器）の使用方法など、2年次学生全員が心肺蘇生に関する実技指導を受けました。

今回の講習は、AEDの操作などを実際に体験することで、救急救命法に関する理解が深まった貴重な機会となり、大変有意義なものとなりました。

（薬学研究院・薬学部）



心臓マッサージ及びAED使用の実技訓練

防災訓練等の実施

附属図書館

附属図書館本館では、11月25日（火）午前11時に、地震発生により東棟2階第1会議室から出火したとの想定のもと、図書館利用者及び職員108名が参加して防災訓練を実施しました。

英語による館内放送並びに掲示も行

い、火災発生後、直ちに通報連絡係、避難誘導係、消火係、防護措置係、救護係、搬出係の自衛消防隊の各担当に分かれ、現場の確認、消防署への通報、非常放送、避難誘導、消火活動等、実践さながらの訓練が行われました。

防災訓練に続いて、防災設備業者指導のもと、消火器具の取扱説明及び実地訓練を実施し、使用方法についてより一層の理解を深め、一連の訓練を無事に終了しました。

（附属図書館）



避難する利用者



消火器訓練をする職員

北海道大学病院

北海道大学病院では、11月17日（月）午後2時より、地震の発生及びこれによる病棟7階西側の給湯室から出火という想定で、総合防災訓練を実施しました。

今回の訓練は地震発生での放送で始まり、迅速に自衛消防組織本部及び地区隊を編成し、会議室やエレベーターに閉じ込められた人の救出や対処などの訓練も行われました。

火災発生のアナウンスがされると、出火病棟の地区隊が初期消火や避難誘導にあたり、自衛消防隊各班も、救護所の設置や消火の応援、危険物の管理、重要物品の搬出など、各々の役割に基づいて行動する訓練を行いました。

また、地震により一部のエレベーターが使えないという設定により、重傷患者を担架を用いて階段で搬送する場面

もあり、患者搬送の困難さを実感するものとなりました。

訓練終了後には、寶金清博病院長から「シナリオ通りにいかないことが多いが、訓練によりイメージーションを高めることで実際の場に対応できる」との講評があり、訓練は無事終了しました。

（北海道大学病院）



初期消火活動の様子



寶金病院長からの講評

北海道大学病院が独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO） 札幌北辰病院とICTネットワーク協定を締結



協定締結式後の記念写真

北海道大学病院では、12月3日（水）、JCHO札幌北辰病院の佐々木文章病院長が来院し、病院間診療情報共有に関する協定締結式が執り行われました。

この協定は、本院とJCHO札幌北辰病院間でICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）ネットワークを利用し、医療

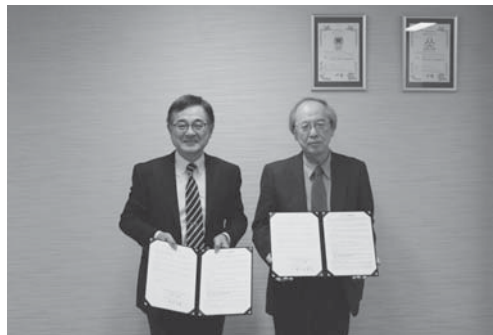
の質と安全性の確保のために詳細な医療情報の共有化を行い、医療機関間の連携をスムーズに行うことを目的としています。

このシステムは、患者さんが主治医からICTネットワークに関する説明並びに説明文書の交付を受け、その目的及び利用方法などのご理解をいただき、参加同意書の提出をした場合のみ利用さ

れるものであり、患者さんのプライバシー保護が厳重に図られています。

本協定締結により、患者さんに対しては質の高い安全な診療の提供を可能にすると同時に、両病院の地域医療連携が一層深まっていくことが期待されます。

（北海道大学病院）



署名後の實金清博病院長（左）と佐々木病院長

附属図書館で国際協力をテーマとしたパネル展示、講演会、 図書展示を開催

11月4日（火）から11月14日（金）にかけて、附属図書館本館メディアコートにおいて、附属図書館と独立行政法人国際協力機構北海道国際センター（JICA北海道）が主催するパネル展示「もっと知ろう！日本の国際協力展」を開催しました。

また、このパネル展示の期間中、連携企画として2階オープンエリアにおいて関連する図書展示や、11月7日（金）午後6時30分からは講演会「第2回国際協力カフェ@北大図書館」を開催しました。

附属図書館は、国際連合から指定を受けた道内唯一の国連寄託図書館として、半世紀にわたり国連資料の所蔵・提供を行うとともに、国連の広報活動に協力してきました。当イベントも、その広報活動の一環として開催したものです。

パネル展示は、日本のODAによる国際協力60周年を記念し、日本の国際協力の歴史や今後の展望、JICAの取り組み等の紹介で構成し、写真パネル等は全てJICA北海道から借用しました。

講演会は、JICA北海道の松島正明所長を講師としてお迎えし、併せて本学と近隣大学生で構成された国際協力サー

クル「結～yui」と「TFT-HOKKAIDO」の活動紹介も行いました。

図書館職員による「国連とODA」についての概略説明に続き、松島所長からは、日本のODAによる国際協力や、道内における国際協力の現状とこれからの課題が語られました。

「結～yui」からは、吉川祐作さん（農学部3年）によるエルサルバドルにおける農業インターン生活について、太田雄高さん（法学部2年）による結～yuiの大学生生活協同組合へのフェアトレード商品の導入等の活動についての報告がありました。

「TFT-HOKKAIDO」からは、工藤菜月さん（文学部3年）と須藤友里乃さん（文学部2年）による先進国の肥満と途上国の飢餓を同時に解決できるTFT*のシステムを北海道に広める取り組みの発表がありました。

講演会の後、参加者にはメディアコートに場所を移してパネル展示をご覧いただきましたが、講師や学生を交えて、国際協力やJICAの話題で話が尽きないようでした。

当日は学生、教職員、学外者を合わせて57名の参加があり、アンケートでも、「同じ学生が行っている国際協力の話はとても新鮮」、「JICA

の方から直接お話を聞ける機会は珍しいので、とても貴重な体験になった」といった声が寄せられ、国際協力活動に対する関心の高さがうかがえました。

*TFT：TABLE FOR TWO

先進国において食事を1回とるごとに、途上国に学校給食など1食分を寄付するという国際貢献活動。

（附属図書館）



図書展示



パネル展示



松島氏の講演



フロアの様子

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成26年11月10日）

- 協議事項・学校教育法の改正に伴う教授会審議事項等への対応について
- ・全学運用教員の措置について
- 報告事項・平成25年度に係る業務の実績に関する評価の結果について
- ・平成26年度今夏の節電対策の結果について
 - ・平成26年度北海道大学進学相談会の開催結果について
-

教育研究評議会（平成26年11月19日）

- 報告事項・平成25年度に係る業務の実績に関する評価の結果について
-

役員会（平成26年11月25日）

- 議案・平成26年度中期目標達成強化経費第五次決定事業について
- 協議事項・重要な財産を譲渡する計画について
- 報告事項・平成26年度総長室事業推進経費第二次決定事業について
- ・平成26年度運営費交付金の追加配分について
 - ・平成26年度中間決算について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

■ 学内規程

北海道大学アイヌ・先住民研究センター規程の一部を改正する規程

（平成26年11月5日海大達第188号）

アイヌ・先住民研究センターのセンター長の選考について、規定の整備を行うものです。

国立大学法人北海道大学経営協議会規程の一部を改正する規程

（平成26年11月27日海大達第189号）

本学の経営に関する重要事項の審議に学外者の意見をより効果的に反映させるため、経営協議会を組織する委員の数を改めるとともに、平成25年4月1日付けで、理学院長と理学研究院長の職を同一の者が兼ねることとなったことに伴い、所要の改正を行うものです。

北海道大学病院受託実習生受入れ規程の一部を改正する規程

（平成26年11月19日海大達第190号）

病院受託実習生に係る実習料について、積算方法の見直しによる料金改定を行うこと、受入対象職種を新設すること及び料金の設定方法を改めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行うものです。

北海道大学病院研修生受入れ規程の一部を改正する規程

（平成26年11月19日海大達第191号）

病院研修生に係る研修料について、積算方法の見直しによる料金改定を行うこと及び料金の設定方法を改めることに伴い、所要の改正を行うものです。

北海道大学病院エイズ診療従事者研修生受入れ規程及び北海道大学病院薬剤師実務受託研修生受入れ規程を廃止する規程

（平成26年11月19日海大達第192号）

北海道大学病院においてエイズ診療従事者研修生及び薬剤師実務受託研修生の受入れを行わなくなることに伴い、本規程の廃止を行うものです。

北海道大学病院規程の一部を改正する規程

（平成26年12月1日海大達第193号）

本年12月1日付けで、北海道大学病院に地域医療支援センターを設置することに伴い、所要の改正を行うものです。

■ 研修

研修名：平成26年度国立大学法人北海道大学簿記研修

開催期間：平成26年10月7日～平成26年11月7日

開催場所：TAC株式会社札幌校

研修目的：会計事務に従事する職員に、会計事務の基礎である国立大学法人会計基準、同注解及び実務指針を理解する上で必要となる複式簿記の基本知識を付与し、日商簿記3級資格を取得させることを目的とする。



資格学校による講義



受講の様子

(財務部主計課)

研修名：北海道地区国立大学における学部・大学院入学前留学生教育プログラム 平成26年度留学生支援担当教職員研修及び平成26年度北海道地区大学等留学生担当職員研修

開催期間：平成26年11月19日～平成26年11月20日

開催場所：国際本部大会議室

研修目的：北海道地区の留学生交流事務を担当する大学等の職員に対し、留学生交流（留学生の派遣・受入）に関する専門的知識を実践的手法により習得させ、職員の資質の向上と事務能率の増進を図ることを目的とする。



事例発表の準備に熱心に取り組む参加者の様子
(留学生のこころの問題 あなたならどうする?)



事例検討後のグループ発表の様子
(留学生受入れ教職員のための異文化間コンフリクトと解決について)

(国際本部国際教務課)

研修名：平成26年度北海道地区国立大学法人等会計事務研修（初級）

開催期間：平成26年11月19日～平成26年11月21日

開催場所：百年記念会館大会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の会計事務に従事する主任以下の職員に、会計事務に係る職員としての心構えを自覚させるとともに、会計事務の遂行に資する幅広い知識を付与することを目的とする。



受講の様子



コンサルティング会社によるグループワーク

(財務部主計課)

研修名：平成26年度北海道地区国立大学法人等会計基準研修

開催期間：平成26年12月3日～平成26年12月5日

開催場所：学术交流会館第1会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の会計事務に従事し、複式簿記の基礎的知識を有する職員に、国立大学法人（独立行政法人）会計基準、同注解及び実務指針に係る知識を習得させることを目的とする。



監査法人による講義



受講の様子

(財務部主計課)

■表敬訪問

国内

| 年月日 | 来訪者 |
|---------|--------------------------------|
| 26.12.1 | 全日本空輸株式会社 上席執行役員 札幌支店長 飯塚 弘衛 氏 |



全日本空輸株式会社 上席執行役員 札幌支店長
飯塚 弘衛 氏（左から2人目）

（総務企画部広報課）

海外

| 年月日 | 来訪者 | 来訪目的 |
|----------|----------------------------------|------------|
| 26.11.18 | ザンビア大学（ザンビア）Stephen Simukanga 学長 | 共同研究に関する懇談 |



ザンビア大学（ザンビア）Stephen Simukanga 学長
（右から3人目）

（国際本部国際連携課）

■ 人事

平成26年11月30日付発令

| 新 職 名 (発令事項) | 氏 名 | 旧 職 名 (現職名) |
|--------------|---------|-------------|
| 【助教】 (辞職) | 木 村 太 一 | 大学院医学研究科助教 |

平成26年12月1日付発令

| 新 職 名 (発令事項) | 氏 名 | 旧 職 名 (現職名) |
|--|--|---|
| 【准教授】 北海道大学病院准教授 人獣共通感染症リサーチセンター准教授, 国際連携研究教育局准教授 電子科学研究所准教授 (転出) 滋賀医科大学准教授 | 高 橋 典 彦 押 海 裕 之 佐 藤 勝 彦 寺 田 晃 士 | 北海道大学病院講師 大学院医学研究科講師 採用 大学院医学研究科助教 |
| 【講師】 大学院獣医学研究科講師, 国際連携研究教育局講師 | 松 野 啓 太 | 採用 |
| 【助教】 北海道大学病院助教 | 岩 田 大 樹 | 採用 |

資料

平成26年度外国人留学生数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

◆部局別

学部等

平成26年11月1日現在

| 部 局 名 | 国 費 | | 外国政府派遣 | | 私 費 | | 合 計 |
|---------------|-------|------|--------|------|--------|----------|----------|
| | 学士課程 | 研究生等 | 学士課程 | 研究生等 | 学士課程 | 研究生等 | |
| 文 学 部 | 1(1) | 2 | | | | 101(74) | 104(75) |
| 教 育 学 部 | | | | | 4(3) | 23(16) | 27(19) |
| 法 学 部 | 1(1) | | | | | 14(6) | 15(7) |
| 経 済 学 部 | | 3(2) | | | 1(1) | 38(21) | 42(24) |
| 理 学 部 | | | | | 7(5) | 12(11) | 19(16) |
| 医 学 部 | | | | | | 3(1) | 3(1) |
| 歯 学 部 | | | | | 1(1) | | 1(1) |
| 薬 学 部 | | | | | | | 0(0) |
| 工 学 部 | 11(4) | | 17(5) | | 11(3) | 23(5) | 62(17) |
| 農 学 部 | 1(1) | | 1 | | 1 | 14(7) | 17(8) |
| 獣 医 学 部 | | | | | 1(1) | 20(10) | 21(11) |
| 水 産 学 部 | | | | | 6(2) | 14(6) | 20(8) |
| 高等教育推進機構総合教育部 | 12(2) | | 5(1) | | 6(3) | | 23(6) |
| 合 計 | 26(9) | 5(2) | 23(6) | 0(0) | 38(19) | 262(157) | 354(193) |

大学院等

| 部 局 名 | 国 費 | | | | 外国政府派遣 | | | | 私 費 | | | | 合 計 |
|---------------------------------|--------|---------|---------|-------|--------|---------|--------|------|----------|---------|----------|----------|------------|
| | 修士課程 | 専門職学位課程 | 博士課程 | 研究生等 | 修士課程 | 専門職学位課程 | 博士課程 | 研究生等 | 修士課程 | 専門職学位課程 | 博士課程 | 研究生等 | |
| 文 学 研 究 科 | 3(1) | | 10(2) | 5(1) | 1(1) | | 16(13) | | 77(57) | | 35(24) | 19(15) | 166(114) |
| 法 学 研 究 科 | 1(1) | | 1(1) | | | | 7(2) | | 17(9) | | 16(5) | 14(9) | 56(27) |
| 経 済 学 研 究 科 | 2(1) | | 2 | | | | 1(1) | | 35(22) | 1 | 6(5) | 2(1) | 49(30) |
| 医 学 研 究 科 | 3(3) | | 7(5) | | | | 2(1) | | 3(2) | | 12(7) | 4(3) | 31(21) |
| 歯 学 研 究 科 | | | 1(1) | 1(1) | | | | | | | 7(2) | 1 | 10(4) |
| 獣 医 学 研 究 科 | | | 21(10) | 1 | | | 3(2) | | | | 17(11) | 3(1) | 45(24) |
| 情 報 科 学 研 究 科 | 4(1) | | 14(5) | 3 | 3(2) | | 11(2) | | 30(5) | | 34(7) | 12(2) | 111(24) |
| 水 産 科 学 研 究 院 | 1 | | 11(5) | | | | 3(1) | | 9(6) | | 10(5) | 8(5) | 42(22) |
| 環 境 科 学 研 究 院 | 6(2) | | 12(7) | | 2 | | 5(3) | | 34(12) | | 38(17) | 9(7) | 106(48) |
| 地 球 環 境 科 学 研 究 院 | | | | 2 | | | | 2(1) | | | | 29(21) | 33(22) |
| 理 学 研 究 院 | 2(1) | | 8(4) | | | | | | 11(3) | | 14(5) | 1 | 36(13) |
| 農 学 研 究 院 | 15(7) | | 30(16) | | | | 15(6) | 1(1) | 16(6) | | 27(14) | 10(8) | 114(58) |
| 農 学 研 究 院 | | | | 4 | | | | | | | | 10(3) | 14(3) |
| 生 命 科 学 研 究 院 | 6(3) | | 30(11) | | | | 4(3) | 2(1) | 3(2) | | 15(5) | 1 | 61(25) |
| 先 端 生 命 科 学 研 究 院 | | | | 1(1) | | | | 1 | | | | | 2(1) |
| 教 育 学 研 究 院 | | | | | 1(1) | | 2(1) | | 33(30) | | 6(2) | 1(1) | 43(35) |
| 教 育 学 研 究 院 | | | | | | | | | | | | | 0(0) |
| 国際広報メディア・観光学院 | 3(3) | | 5(2) | | | | 4(2) | | 43(32) | | 7(3) | 1 | 63(42) |
| メディア・コミュニケーション研究院 | | | | 2(2) | | | | | | | | 21(17) | 23(19) |
| 保 健 科 学 研 究 院 | | | | | | | 1 | | 4(3) | | | | 5(3) |
| 保 健 科 学 研 究 院 | | | | 1(1) | | | | | | | | 4(4) | 5(5) |
| 工 学 研 究 院 | 25(8) | | 36(11) | | 1 | | 14(3) | | 22(7) | | 34(7) | 12(4) | 144(40) |
| 工 学 研 究 科 | | | | 1 | | | | 2(1) | | | | 13(2) | 16(3) |
| 工 学 研 究 科 | | | | | | | | | | | 1 | | 1(0) |
| 総 合 化 学 学 院 | 1(1) | | 14(8) | | 2(1) | | 6(1) | | 9(3) | | 26(10) | 3 | 61(24) |
| 公 共 政 策 学 教 育 部 | | | | | | | | | | 7(5) | | | 7(5) |
| 公 共 政 策 学 連 携 研 究 部 | | | | | | | | | | | | 7(5) | 7(5) |
| 低 温 科 学 研 究 所 | | | | 1 | | | | | | | | | 1(0) |
| 電 子 科 学 研 究 所 | | | | | | | | | | | | 1 | 1(0) |
| 遺 伝 子 病 制 御 研 究 所 | | | | | | | | | | | | 1(1) | 1(1) |
| 触 媒 化 学 研 究 セ ン タ ー | | | | | | | | | | | | | 0(0) |
| ス ラ ブ ・ ユ ー ラ シ ア 研 究 セ ン タ ー | | | | 2 | | | | | | | | | 2(0) |
| 情 報 基 盤 セ ン タ ー | | | | 1(1) | | | | | | | | 1(1) | 2(2) |
| 北 方 生 物 圏 フ ィ ー ル ド 科 学 セ ン タ ー | | | | | | | | | | | | 1(1) | 1(1) |
| 観 光 学 高 等 研 究 セ ン タ ー | | | | 2(1) | | | | | | | | | 2(1) |
| 国 際 本 部 留 学 生 セ ン タ ー | | | | 1(1) | | | | | | | | 3(1) | 4(2) |
| 高 等 教 育 推 進 機 構 | | | | 1 | | | | | | | | 2(2) | 3(2) |
| 合 計 | 72(32) | 0(0) | 202(88) | 31(9) | 10(5) | 0(0) | 94(41) | 9(5) | 346(199) | 8(5) | 305(129) | 197(116) | 1,274(629) |

日本語研修生等

| 国際本部留学生センター | 日本語・日本文化研修生 | | 日 本 語 研 修 生 | | 合 計 |
|-------------|-------------|--------|-------------|--------|-----|
| | 国 費 | 私 費 | 国 費 | 私 費 | |
| | 28(22) | 22(15) | 8(1) | 16(11) | |

外国人留学生及び外国人学生総数

| 学部留学生数 | 大 学 院 留 学 生 | | | 研 究 生 等 | 日 本 語 研 修 生 日本語・日本文化研修生 | 留 学 生 総 数 | 外 国 人 学 生 〔「留学」以外〕 | 留 学 生 及 び 外 国 人 学 生 総 計 |
|--------|-------------|---------|----------|----------|----------------------------|------------|-----------------------|----------------------------|
| | 修士課程 | 専門職学位課程 | 博士課程 | | | | | |
| 87(34) | 428(236) | 8(5) | 601(258) | 504(289) | 74(49) | 1,702(871) | 66(23) | 1,768(894) |

* () 内は女子を内数で示す。

* 修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む。

* 研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む。

(国際本部国際教務課)

北大時報掲載記事事項別一覧（平成26年掲載分）

表紙

- 1月号 ・大学入試センター試験（2014.1.18・19）
- 2月号 ・函館を出港する水産学部附属練習船おしよろ丸
- 3月号 ・一般入試前期日程の合格発表（2014.3.7）
- 4月号 ・北海道大学病院陽子線治療センター
- 5月号 ・百年記念会館2階回廊の大学沿革展示
- 6月号 ・新渡戸カレッジフェローとカレッジ生のグループミーティング
- 7月号 ・フロンティア応用科学研究棟
- 8月号 ・おしよろ丸V世
- 9月号 ・北方生物圏フィールド科学センター「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」
- 10月号 ・北海道大学ホームカミングデー2014「歓迎式典・記念講演会」
- 11月号 ・イチョウ並木
- 12月号 ・サステナビリティ・ウィーク2014「STAND UP TAKE ACTION in Hokudai」

裏表紙

- 1月号 ・北の鉄道風景（10）排雪列車
- 2月号 ・北の鉄道風景（11）SL冬の湿原号
- 3月号 ・北の鉄道風景（12）雪を頂く雄阿寒岳
- 4月号 ・北の鉄道風景（13）桜咲く頃に
- 5月号 ・北の鉄道風景（14）山笑う
- 6月号 ・北の鉄道風景（15）夕暮れの旅路
- 7月号 ・北の鉄道風景（16）711系電車
- 8月号 ・北の鉄道風景（17）北限の鮎釣り
- 9月号 ・北の鉄道風景（18）蒸留所のある街
- 10月号 ・北の鉄道風景（19）黄葉の溪谷
- 11月号 ・北の鉄道風景（20）初雪の朝
- 12月号 ・北の鉄道風景（21）初冬の駒ヶ岳

総長告辞等

- 1月号 ・年頭の挨拶
- 4月号 ・告辞（学士学位記授与式，入学式）
- 5月号 ・総長就任1年を省みて，そして展望

役員便り

- 2月号 ・大学における資金運用について
- 3月号 ・「新渡戸カレッジ」この一年
- 6月号 ・同窓会との連携強化について
- 7月号 ・「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」について
- 8月号 ・教職員の表彰制度について
- 9月号 ・国際研究拠点としての更なる研究の飛躍を目指して
- 10月号 ・先進的な授業改革の取組
- 11月号 ・スーパーグローバル大学創成支援
- 12月号 ・北大病院の10年の歩み

全学ニュース

- 1月号 ・大学入試センター試験の実施
- ・第16回ソウル大学・北海道大学 ジョイントシンポジウムを開催
 - ・分科会1：The Present Chemistry at SNU and HU
 - ・分科会2：Toward understanding of our environment
 - ・分科会3：International Relations of Young Researchers in Algebra and Related Fields
 - ・分科会4：International Workshop on New Frontiers in Convergence Science and Technology
 - ・分科会5：Nanopharmaceuticals for Next Generation
 - ・分科会6：Current Advances in Veterinary Bioscience
 - ・分科会7：Individualization and Liberalism in Korea and Japan: Implications of Ageing Society
 - ・分科会8：Bringing Together for Future Creative Society: Research in Science Learning in Formal and Informal Settings
 - ・分科会9：3rd Joint Symposium on Public Health and Sustainability – Global Health and Population Aging –
 - ・分科会10：9th SNU-HU Symposium on Mechanical and Aerospace Engineering

- ・分科会11：Democracy and Mutual Understanding in East Asia
 - ・分科会12：Japan-Korea International Symposium in Ophthalmology
 - ・分科会13：Food Safety and Health
 - ・分科会14：The 1st seminar on Renewable energy and Indoor Air Environment for Comfort and Energy Conservation in Buildings
 - ・分科会15：1st HUH-SNUH Joint Symposium
 - ・分科会16：New Educational Challenges for Creativity and Convergence
 - ・分科会17：Modern as the Past: Russian Modernism viewed from the 21st century
 - ・分科会18：The 2nd HU-SNU Joint Symposium on Materials Science and Technology
 - ・分科会19：Toward Internationalization: Strategies for the Future
 - ・平成25年度補正予算（第1号）案等（本学関係分）の主要事項
 - ・平成26年度予算案（本学関係分）の主要事項
 - ・北大フロンティア基金
 - ・北海道大学技術研究会2013を開催
 - ・第3回北海道大学教育改善マネジメントワークショップを開催
 - ・平成25年度北海道アグリ技術シーズセミナーを開催
 - ・北大インターナショナルハウスで消防避難訓練を実施
- 2月号**
- ・本学職員表彰を実施
 - ・AO入試合格者の発表
 - ・北海道大学一般入試の志願状況
 - ・「北大生をグローバルに活躍する気にさせるセミナー」を開催
 - ・第9回北海道大学・九州大学合同活動報告会を開催
 - ・「若手人材育成シンポジウム“シンフォスター2014”」の開催
 - ・第32回創成科学サロン「2014年 初夢を語る」を開催
 - ・北ユーラシア研究会の発足を開催
 - ・北海道大学総長奨励金受給留学生報告会を実施
 - ・企業研究セミナーを開催
 - ・北大フロンティア基金
- 3月号**
- ・道内7国立大学が、教養教育における単位互換協定と留学生への入学前教育の実施に関する協定を締結
 - ・北海道大学交流デー（ノースウエスト大学）を開催
 - ・北海道大学一般入試（前期日程・後期日程）及び私費外国人留学生入試の実施と合格者の発表
 - ・平成25年度外国人留学生歓迎・送別懇談会を開催
 - ・留学生センター日本語研修コース修了式（2013年10月入学者）
 - ・平成25年度北海道大学フロンティア奨学金受給者（総合教育部）の決定
 - ・レアアースレスモータを「札幌モーターショー2014」に出展
 - ・北大フロンティア基金
 - ・本学が次世代育成支援対策推進法に基づく基準適合一般事業主に認定
 - ・北海道の食と省エネを中心とした新技術説明会 in HOKKAIDOを開催
 - ・研究者のためのスキルアップセミナー「伝わるビジュアルデザイン」を開催
 - ・第11回創成シンポジウム「石狩から電力革命－目指せ！送電ロス・ゼロの世界－」を開催
 - ・第3回環境負荷低減推進会議サステイナブルキャンパスカフェを開催
- 4月号**
- ・平成25年度学位記授与式の挙行
 - ・総長告辞（学士学位記授与式）
 - ・来賓祝辞（学士学位記授与式）
 - ・平成26年度入学式の挙行
 - ・総長告辞（入学式）
 - ・「教育総長賞・研究総長賞」表彰式を挙行
 - ・「教育研究支援業務総長表彰」表彰式を挙行
 - ・本学永年勤続者表彰に112氏
 - ・名誉教授に53氏
 - ・北大フロンティア基金
 - ・平成26年度北海道大学の予算
 - ・次世代大学力強化推進会議を開催
 - ・「第1回 オープンファシリティシンポジウム」を開催
 - ・EU3大学との国際交流プロジェクト“UNI-Metrics”報告会
 - ・平成25年度学部入学前準備教育試行プログラムを実施
 - ・平成25年度北大ペンハロー賞授与式を挙行
 - ・平成25年北大えるむ賞授与式を挙行
 - ・平成25年度北海道大学大塚賞授与式を挙行
 - ・平成25年度クラーク賞表彰式を挙行
 - ・平成25年度北海道大学鈴木章科学奨励賞－自然科学実験－授与式を挙行

- 5月号
 - ・「北海道大学 研究シーズ集2014」を発行
 - ・北海道大学交流デー（フィンランド アールト大学）を開催
 - ・北海道大学交流デー（中国 華中科技大学・湖南大学）を開催
 - ・春の叙勲に本学から3氏
 - ・平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰で科学技術賞を受賞
 - ・平成26年度「全学教育科目に係るTA研修会」を開催
 - ・「平成27年度採用分 日本学術振興会特別研究員申請セミナー」の開催
 - ・国際連携アドバイザー 武田修三郎氏講演会を開催
 - ・「新入生対象留学オリエンテーション」を開催
 - ・「日本語研修コース」入学式を挙げる
 - ・第7回「食と健康」研究会を開催
 - ・北大フロンティア基金
- 6月号
 - ・名誉教授称号授与式の挙げる
 - ・新渡戸カレッジ入校式を挙げる
 - ・どうなる！？2016就活後ろ倒しスケジュール説明会を開催
 - ・「海外留学説明会」及び「短期語学研修プログラム説明会」等を開催
 - ・北大フロンティア基金
- 7月号
 - ・台湾 国立政治大学との大学間交流協定調印式を開催
 - ・第15回北大・九大合同フロンティア・セミナーを開催
 - ・平成26年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙げる
 - ・平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰～科学技術賞（研究部門）に理学研究院 見延庄士郎教授
 - ・第24回北海道大学教育ワークショップ（FD）を開催
 - ・北大キャンドルナイト2014を開催
 - ・構内の伐採木・剪定枝を配布
 - ・サステイナブル・キャンパス・コンテスト最優秀賞「ウッドデッキ再生プロジェクト」の完了
 - ・第8回「食と健康」研究会を開催
 - ・第1回フード&メディカルイノベーション推進本部運営委員会を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・平成25年度北海道大学外国人留学生後援会の決算
- 8月号
 - ・北海道大学 緑のピアガーデン2014を開催
 - ・北海道大学入試説明会を実施
 - ・平成26年度北海道大学公開講座「安全・安心な社会とくらしを創る」が終了
 - ・平成26年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙げる
 - ・北方生物圏フィールド科学センター 星野洋一郎准教授が独立行政法人日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を受賞
 - ・公共政策学連携研究部 遠藤 乾教授が読売・吉野作造賞を受賞
 - ・北大フロンティア基金
 - ・平成26年度 公益財団法人北海道大学クラーク記念財団助成事業の決定
 - ・衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会が本学を視察
 - ・北洋銀行ものづくりテクノフェア2014に出展
 - ・中学生が電子顕微鏡を体験
 - ・COI-T「食・運動・健康・医療をつなぐ知で家庭に拓く次世代健康生活創造の国際拠点～『食と健康の達人』を創る～」参画機関会議を開催
 - ・「出入国管理制度説明会」を開催
 - ・「海外大学院留学説明会」及び「交換留学説明会」を開催
 - ・平成26年度交換留学生に対する出発前オリエンテーションを実施
 - ・アイヌ民族の文化に触れる「ホリデー in ひだか」を開催
 - ・化学物質取扱講習会を開催
 - ・平成26年度北海道大学情報セキュリティセミナーを開催
- 9月号
 - ・札幌キャンパスを駆け抜ける ―2014北海道マラソン―
 - ・公益財団法人北海道大学クラーク記念財団への寄附
 - ・富岡 勉文部科学大臣政務官が本学を視察
 - ・平成26年度教員免許状更新講習を開催
 - ・平成26年度オープンキャンパスを開催
 - ・「北海道大学進学相談会」を東京で開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・北海道大学事務職員英語研修（海外派遣）報告会を実施
 - ・新渡戸カレッジ特別講演会を開催
 - ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）人獣共通感染症グローバルステーションが国際シンポジウム：The First Symposium of the Consortium for the Control of Zoonosesを開催
 - ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第1回医学物理サマースクールを開催

10月号

- ・留学生センター日本語研修コース修了式並びに同コース、日本語・日本文化研修コース（日研コース）及び北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）合同修了祝賀会を開催
- ・日本語教授法ワークショップを開催
- ・鮮度保持技術に関する意見交換会を開催
- ・第1回新任教員向けキャンパスツアーを開催
- ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで「キャリアパス多様化支援セミナー（番外編）」を開催
- ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで「Advanced COSA（1）」を開催
- ・北海道大学ホームカミングデー2014の開催
 - 第3回ホームカミングデーを終えて—
 - ・総務企画部広報課
 - 歓迎式典・記念講演会
 - ・文学研究科・文学部 教育学院・教育学研究院・教育学部 法学研究科・法学部 経済学研究科・経済学部
 - 公開講演会・同窓会総会・同窓会合同懇親会
 - ・医学研究科・医学部
 - 北海道大学医学部フラテ祭2014
 - ・保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科
 - 保健科学研究院ホームカミングデー（分野紹介・講演会・内覧会）
 - ・歯学研究科・歯学部
 - 歯学研究科・歯学部の現状報告ならびに見学会
 - ・獣医学研究科・獣医学部
 - 獣医学部同窓会平成26年度通常総会，フォーラム「未来のフロンティア・ベッツ～現役学生が語る将来の夢～」，懇親会
 - ・情報科学研究科
 - 北楡会母校交流会
 - ・水産科学院・水産科学研究院・水産学部／北水同窓会
 - 水産学部卒業生のつどい～講演会，懇親会～
 - ・地球環境科学研究院・環境科学院／環境科学同窓会
 - 若手卒業生による講演会，コース・研究室紹介パネル展示
 - ・理学院・理学研究院・理学部，先端生命科学研究院／理学部同窓会
 - 理学部ホームカミングデー
 - ・農学院・農学研究科・農学部
 - 「Sapporo Alumni Lectures」及び「市民公開・農学特別講演会」
 - ・国際広報メディア・観光学院 メディア・コミュニケーション研究院
 - HCD@IMCTS修了生meet在学生
 - ・工学院・工学研究院・工学部
 - 工学部創立90周年記念事業（記念式典，記念講演会，祝賀会）
 - ・北方生物圏フィールド科学センター
 - 「生物生産研究農場」ミニツアー，植物園の見学
 - ・附属図書館
 - 企画展示：北方資料からみる「江戸・蝦夷・ロシア」交流展：第1期：漂流民大黒屋光太夫の帰還とラクスマン来航
 - ・総合博物館
 - 北大ミュージアムクラブMouseionの学生による展示解説
 - ・北大キャンパスビジットプロジェクト（学務部入試課担当）
 - キャンパスツアー - 現役北大生とめぐるキャンパス今昔-
 - ・学務部学生支援課
 - 課外活動施設の見学，落語研究会「ききょう寄席」，写真部 写真展&写真撮影サービス，陸上ホッケー部 OB戦
 - ・ほっかいどう同窓会
 - 北海道の食を楽しむイン北大
 - ・恵迪寮同窓会
 - 文化講演と寮歌の集い
- ・平成26年度スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA（トップ型）に採択
- ・インフォメーションセンター「エルムの森」利用者100万人達成！
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会連携大学地域巡回フォーラム「北海道ブロック大会」開催
- ・独立行政法人日本学術振興会 平成25年度特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から6名
- ・北大フロンティア基金
- ・平成26年度北海道大学インターンシップを実施
- ・総長室事業推進経費による「教育プログラムの開発研究」の成果発表ワークショップを開催
- ・未来創業・医療イノベーション拠点形成事業 第12回国際シンポジウム～Perspectives of Molecular Imaging and Target Therapy/これまでの成果と今後の展望～を開催

- ・第2回COI-Tプログラム「『食と健康の達人』拠点」参画機関会議を開催
- ・「北海道地域3大学2公設試 新技術説明会」を開催
- ・北海道大学総合技術研究会を開催
- ・平成26年度国立大学法人等情報化発表会を開催
- ・イノベーション・ジャパン2014に出展
- ・利益相反セミナーを開催
- ・「生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設慰霊祭」を挙
- ・リサーチ・アドミニストレーター（URA）の全国大会を開催～500名を超すURAが議論
- ・札幌国際芸術祭2014連携事業「北大アーティストカフェ」を実施
- ・研究者のためのスキルアップセミナー②「伝わるデザインの法則：外部資金申請のためのレイアウトとデザイン」を開催
- ・函館・札幌の若手研究者を中心とした情報交換及び学際・地域間共同研究マッチング「函館研究交流会」を開催
- ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第23回「赤い糸会&緑の会」を開催
- ・北キャンパスで合同消防訓練を実施

11月号

- ・秋の叙勲に本学から2氏
- ・西川公也農林水産大臣が本学を視察
- ・北海道大学交流デー（韓国 全北大学校、江陵原州大学校）を開催
- ・「北海道大学進学相談会」を名古屋と大阪で開催
- ・イチヨウ並木の一般開放を実施
- ・北大フロンティア基金
- ・平成26年度北海道地区大学SD研修「大学職員セミナー」を開催
- ・平成26年度北海道大学鈴木章科学奨励賞—自然科学実験—被表彰者の決定
- ・平成26年度小島三司奨学金受給者の決定
- ・平成26年度北海道大学フロンティア奨学金受給者の決定
- ・「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」、「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」入学式を挙
- ・北海道大学総長奨励金給付証書並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙
- ・北大インターナショナルハウスで消防避難訓練を実施
- ・国際ワークショップ“New Frontiers in Biomineral Formation Research：From Pre-nucleation Clusters to the Final Crystals”を開催

12月号

- ・北海道大学交流デー（中国 南京大学・東南大学）を開催
- ・平成26年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学から2氏
- ・平成26年度科研費審査委員表彰に本学から6名
- ・北大フロンティア基金
- ・北海道大学事務職員海外インターンシップを実施
- ・AO入試合格者の発表
- ・帰国子女入試合格者の発表
- ・大学入試センター試験 本学一般入試個別学力検査等 実施体制等の決定
- ・サステナビリティ・ウィーク2014の開催
- サステナビリティ・ウィーク2014を振り返って
 - ・日中記者交換協定50年 日本報道、中国報道の半世紀
 - ・CRC国際シンポジウム 生体分子をモチーフとした機能性分子の創製と応用
 - ・専門家国際ネットワークを用いたサニテーション教育
 - ・STAND UP TAKE ACTION in Hokudai
 - ・CLARK THEATER 2014
 - ・第5回ESD国際シンポジウム
 - ・雑紙削減プロジェクトPAPERSPACE～身近なところから見つめなおそう～
 - ・障害をもつ大学生の就労をめざして
 - ・北大×JICA連携企画 青年海外協力隊トークイベント～持続可能な社会をつくる日本のボランティア～
 - ・北海道／防災・減災リレーシンポジウム—冬の防災・危機管理を考える—
 - ・サステナビリティウィーク北大・地球研合同ワークショップ「地域や人びとに寄り添う研究の在り方とは？」
 - ・第9回応用倫理国際会議「安全、サステナビリティ、人性の涵養～気候変動に対する道徳義務～」
 - ・特別講演会「サステナビリティの倫理」
 - ・保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」
 - ・RECCA北海道 北海道における気候変動とその適応ワークショップ
 - ・協定校企画 フィンランドー日本 ジョイントシンポジウム
 - ・経済学研究科 REBN シンポジウム—北海道における新時代の「ものづくり」：IT×農業の試み—
 - ・GiFT2014 -Global Issues Forum for Tomorrow- 実施報告
 - ・安全でサステナブルな社会の土台をつくるには？—社会基盤学からの多様な視点—
 - ・北大×JICA連携企画 国際協力人材セミナー in 北海道
 - ・第5回学生企画 サステナブル・キャンパス・コンテスト—サステナブルな明日への架け橋—

- ・国際シンポジウム 環境と健康と科学コミュニケーション
- ・北大アフリカ研究会シンポ アフリカで活躍する北大の研究者たちⅡ～アフリカに展開する北大研究ネットワーク～
- ・第25回北海道大学教育ワークショップ (FD) を開催
- ・第4回北海道大学教育改善マネジメントワークショップを開催
- ・第16回北大・九大合同フロンティア・セミナーを開催
- ・研究者のためのスキルアップセミナー③「恋愛下手?それじゃ科学は伝わらない～何が人をその気にさせるのか～」を開催
- ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで「キャリアパス多様化支援セミナー I (交渉学)」を開催
- ・人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで「Advanced COSA (2)」を開催
- ・ビジネスEXPO「第28回北海道 技術・ビジネス交流会」に出展
- ・「シーズ・ニーズマッチングフェア with 金融機関」を実施

部局ニュース

- 1月号**
- ・鈴木 章名誉教授と小学生親子の実験交流イベント「サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館」を開催
 - ・スラブ研究センターが冬期国際シンポジウム「災難と再生：変動するスラブ・ユーラシアへの新しい研究視角」を開催
 - ・第14回 RIES-Hokudai国際シンポジウム「網」を開催
 - ・メディア・コミュニケーション研究院が公開講座「ヨーロッパの古い文字を書くーカリグラフィー入門」を開催
 - ・観光学高等研究センター公開講座「現代の『聖地巡礼』考～人はなぜ聖地を目指すのか～」が終了
 - ・平成25年度低温科学研究所公開講座「低温の魅力」を実施
 - ・経済学部で特別講演会「AIRDOのマーケティングを考える」を開催
 - ・平成25年度 北海道大学薬学部合同企業セミナーを開催
 - ・「水産科学院・水産学部主催合同企業セミナー」を開催
 - ・第11回 脳科学研究教育センターシンポジウム「快・不快の神経基盤の解明と応用」を開催
 - ・セミナー「加速化するオープンエデュケーション」を開催
 - ・附属図書館で「救命導入 (AED) 講習会」を開催
 - ・低温科学研究所技術部で第19回技術報告会及び第6回技術部セミナーを開催
 - ・理学研究院がえりも高等学校で防災教育を実施
 - ・ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI「ようこそ不思議な細菌の世界へー身の周りの細菌を見てふやして感じてみようー」を開催
 - ・北海道大学病院でクリスマスコンサートを開催
 - ・奥村信一旧蔵資料を大学文書館で再受贈
- 2月号**
- ・地球環境科学研究院が「省エネ大賞」を受賞
 - ・北海道大学病院医員棟が完成
 - ・触媒化学研究センター第10回・第11回情報発信型国際シンポジウムを開催
 - ・「平成25年度北海道大学工学系産業技術フォーラム」を開催
 - ・工学部で第2回心のケアに関する講習会を開催
 - ・農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催
 - ・附属図書館「海外出張報告会」を開催
 - ・小学生が真冬の森の遊びを満喫！ー雨龍研究林で「森のたんけん隊2014冬」を開催
- 3月号**
- ・地球環境科学研究院・環境科学院がマレーシア・サバ大学熱帯生物保全研究所と部局間交流協定を締結
 - ・水産学部附属練習船「おしよろ丸」代船 命名・進水式を挙行～新船を「おしよろ丸」と命名～
 - ・第4回日本学術振興会育志賞ー優秀な大学院博士課程学生の顕彰・支援ー 文学研究科学生が受賞
 - ・経済学研究科でウズベキスタン世界経済外交大学=北海道大学セミナーを開催
 - ・経済学研究科がシンポジウム「ファイナンス理論の新展開と金融リスク管理」を開催
 - ・総合博物館で「卒論ポスター発表会」を開催
 - ・理学研究院が国際会議“The Impact of Galactic Structure on Star Formation”を開催
 - ・薬学研究院で第2回北大創薬センターシンポジウム・第20回ファーマサイエンスフォーラム「アカデミア発の創薬をめざして」を開催
 - ・スラブ研究センターがGCOE「境界研究の拠点形成」ファイナルシンポジウムを開催
 - ・文学研究科・文学部でハラスメントに関するFD研修会を開催
 - ・先端生命科学研究院でFDSD研修会「総会2013」を開催
 - ・薬学研究院が平成25年度FD研修会を開催
 - ・農学研究院で平成25年度第3回FD研修会を開催
 - ・附属図書館で国立大学図書館協会北海道地区企画事業「情報発信力スキルアップワークショップ」を開催
 - ・附属図書館が調べ物のオンライン相談窓口「図書館スタッフに相談しよう」を開設
 - ・「国際協力カフェ@北大図書館」を開催
 - ・低温科学研究所でスノーランタンによるライトアップを実施
 - ・工学系部局で救急救命講習会を実施
- 4月号**
- ・北海道大学病院で陽子線治療センター竣工披露式及び開所式を挙行
 - ・低温科学研究所がロシア科学アカデミー極東支部太平洋地理学研究所と部局間交流協定を締結
 - ・スラブ研究センターがスラブ・ユーラシア研究センターに改称し、記念シンポジウムを開催

- ・文学研究科国際シンポジウム 新渡戸稲造とこれからのグローバル化ー『武士道』と国際人ーを開催
 - ・公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センターがシンポジウム「北海道ダイアログ：東アジアにおける市民社会対話」を開催
 - ・メディア・コミュニケーション研究院が国際シンポジウム「北海道における多文化共生：その理念と実践」を開催
 - ・国際広報メディア・観光学院で優秀学生「舞台は地球」賞の授賞式を挙
 - ・国際広報メディア・観光学院国際広報メディア専攻留学生北京説明会及び同窓会を実施
 - ・国際広報メディア・観光学院で教員研修（FD）講演会を開催
 - ・薬学研究院が「第3回薬学研究院研究発表会（FD研修会）」を開催
 - ・平成25年度北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程共同FDの開催
 - ・水産科学院各種表彰（伊藤一隆賞、はるにれ賞及びジョンカッター賞）の授賞式を挙
 - ・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第10期修了生に修了証書授与
 - ・図書館学生サポーター活動証明書授与式を挙
 - ・附属図書館で平成25年度研修出張報告会を開催
 - ・北海道大学病院で第1回 新卒者多職種合同歓迎会を開催
 - ・松本純爾旧蔵日記を大学文書館で受贈
- 5月号**
- ・経済学部でメンタルヘルス講演会を開催
 - ・水産学部3年生キャンパス移行式を実施
 - ・水産学部で函館キャンパス移行成績優秀者表彰（くろしお賞）の授与式を挙
 - ・水産科学院・水産学部でTA研修会を開催
 - ・平成26年度薬学実務実習開始セレモニーを挙
 - ・薬学部で新入生歓迎会を開催
 - ・低温科学研究所技術部職員が国立天文台ASTE望遠鏡用多色連続波カメラの現地作業をチリ共和国で実施
 - ・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙
 - ・総合博物館で「ミュージアムマイスター認定式」を挙
 - ・新渡戸稲造墨蹟を大学文書館で受贈
 - ・百年記念会館2階回廊の大学沿革展示をリニューアル
 - ・工学部学生宮澤弘幸旧蔵アルバムを大学文書館で新たに受贈
- 6月号**
- ・触媒化学研究センターがアメリカ合衆国パーデュー大学 サイエンス学部と友好学術交流協定を締結
 - ・第33回 創成科学サロン 「新所長・センター長の夢」&春の宴を開催
 - ・北海道日本ハムファイターズが院内学級を訪問
 - ・公共政策学連携研究部及び教育部と斜里町議会が包括的連携協定を締結
 - ・獣医学部で「地方自治体等合同就職説明会」を開催
 - ・総合博物館分館水産科学館で企画展示「学船 洋上のキャンパスおしよる丸」を開催
 - ・函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施
 - ・工学系部局で新規安全主任者講習会を実施 事務系職員には安全衛生教育講習会を実施
 - ・看護週間ー「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施
- 7月号**
- ・「フロンティア応用科学研究棟」落成式、落成記念式典、落成記念講演会、落成記念祝賀会を開催
 - ・医学研究科附属動物実験施設完成披露・祝賀会を挙
 - ・農学研究院・農学院・農学部が農林水産分野において北海道農政部・水産林務部と連携推進に関する覚書を締結
 - ・公共政策学連携研究部及び教育部が株式会社北海道新聞社と連携協定を締結
 - ・水産科学研究院が「食とバイオ国際交流シンポジウム2014」を開催
 - ・総長みずから数理連携による大学院教育の推進を宣言 物質科学の博士課程教育リーディングプログラム特別講演会を開催
 - ・会計専門職大学院で開設10周年記念セミナーを一般社団法人日本内部監査協会と共同開催
 - ・会計専門職大学院において公認会計士・監査審査会会長による特別セミナーを開催
 - ・会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催
 - ・経済学部で成績優秀者表彰式を挙
 - ・環境科学院で北大祭・研究施設公開「知ってなるほど環境科学」を開催
 - ・5研究所・センター合同で一般公開を開催
 - ・メディア・コミュニケーション研究院公開講座「近代とその行方：アートとグローバリゼーションとリスク」が終了
 - ・環境健康科学研究教育センターで「子どもの健康と発達」に与える社会経済要因の影響に関するセミナーを開催
 - ・薬学部でメンタルヘルス講習会を実施
 - ・薬学部で第17回生涯教育特別講座を開催
 - ・工学研究院で工学系大学院FD研修を開催
 - ・工学系部局で「第1回心のケアに関する講習会」を開催
 - ・附属図書館で2014年 日・EUフレンドシップウィークイベント「Visit Sweden!」を開催
- 8月号**
- ・水産学部附属練習船おしよる丸V世の竣工披露式・祝賀会を挙
 - ・教育学研究院が韓国ソウル国立大学校師範大学と覚書を締結
 - ・総合博物館開館入館者100万人達成
 - ・国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院が英国シェフィールド大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催
 - ・スラブ・ユーラシア研究センターが国際シンポジウム「危機の30年」を開催

- ・文学研究科「書香の森」にて絵画作品解説会を開催
 - ・理学部で「がん細胞の動きを止めろ！ ～がん細胞のタンパク質を光らせよう～」を実施
 - ・北海道大学納骨堂慰霊式を挙行
 - ・工学系部局で救急救命講習会を実施
 - ・附属図書館が保健科学研究院で博士論文のインターネット公表に関する説明会を実施
 - ・北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施
 - ・北海道大学病院で「第49回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施
 - ・総合博物館で夏季企画展示「学船 洋上のキャンパスおしよろ丸」札幌展示が開幕
 - ・総合博物館でカルチャーナイト2014「チェンバロと星空の夕べ」を開催
 - ・総合博物館で学生発案型の夏のイベント「Hello, Museum！」を開催
 - ・総合博物館で大学院生が企画・開発したミュージアムグッズの販売開始
 - ・遠友夜学校関係資料を札幌市から大学文書館で受贈
 - ・平塚直治関係資料を大学文書館で再受贈
 - ・澁谷紀三郎旧蔵写真を大学文書館で再受贈
 - ・旧制高等学校・大学予科の徽章を大学文書館で受贈
- 9月号**
- ・水産科学研究院が美深町と包括連携協定を締結
 - ・総合博物館がむかわ町と相互協力協定を締結
 - ・公共政策大学院が「地方議員向けサマースクール」を開催－地方自治体における公共施設の今後のあり方について討議－
 - ・北方生物圏フィールド科学センターで「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催
 - ◆体験！ベリー研究の最前線“君も育種家になろう！”
 - ◆のぞいてみよう海の底，北海道の魚たちをまるごとリサーチ
 - ◆海の森の調査隊～おしよろの“こんぶ”を調べよう～
 - ◆農地を改良する緑肥作物をみてみよう
 - ・北大農場公開デー「ジャガイモ収穫&ポテトチップス作り」
 - ・法学研究科・附属高等法政教育研究センター公開講座「なぜ憲法改正なのか？」が終了
 - ・情報法政策学研究センターでサマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題—特許法をめぐる—」を開催
 - ・北海道大学病院で第1回地域連携懇話会を開催
 - ・医学研究科・医学部で第27回教育ワークショップを開催
 - ・薬学研究院が「第4回薬学研究院研究発表会」を開催
- 10月号**
- ・法学研究科が台湾法官学院（台湾）との部局間交流協定を締結
 - ・農学研究院・農学院・農学部，北方生物圏フィールド科学センターが札幌市円山動物園と包括連携協定を締結
 - ・経済学研究科がエズラ・F・ヴォーゲル氏を招き「北海道大学特別講演会」を開催
 - ・理学研究院附属地震火山研究センターで第8回北太平洋沈み込み帯国際ワークショップを開催
 - ・国際広報メディア・観光学院，メディア・コミュニケーション研究院で今年度2回目の「TLLPスタディ・ウィーク（9月セッション）」を開催
 - ・水産科学院が第4回国際サマーコースを開催
 - ・平成26年度水産学部公開講座「最近の海の環境変化と水産資源」が終了
 - ・平成26年度地球環境科学研究院公開講座「IPCC第5次評価報告書を読み解く」が終了
 - ・医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
 - ・動物慰霊式を挙行
 - ・北方生物圏フィールド科学センターで「第1回森林フィールド講座・和歌山編 熊野の森の楽しみ方」を開催
 - ・平成26年度文学研究科FD研修会を開催
 - ・生命科学院でFD研修～学生指導と教育環境「変わる就活期間，留学生支援」～を開催
 - ・総合博物館で企画展「三岸好太郎と札幌の山－三岸好太郎作《北海道風景（大通公園）》（筑波大学所蔵）をめぐる－」と関連ワークショップを開催
 - ・工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
 - ・北海道大学病院で災害医療訓練，CBRNE災害対策訓練を実施
 - ・附属図書館でインターンシップ・図書館実習を実施
 - ・北図書館で札幌市立高等学校「職場体験学習」の生徒を受け入れ
 - ・ピア・サポートと北図書館による1年生サポート企画「少年よ，学部を選べ！2014」を開催
- 11月号**
- ・文学研究科「書香の森」にて「プラス1ピースの読書会」を開催
 - ・歯学研究科で市民公開特別講座「食事はどのようにして楽しいの？」を開催
 - ・経済学部で第1回プレゼン大会を開催
 - ・経済学研究科・経済学部で「学部生，研究生のための大学院ガイダンス」を開催
 - ・経済学研究科・経済学部で外国人留学生懇親会を開催
 - ・生命科学院が「第2回生命科学国際シンポジウム」を開催
 - ・函館キャンパスで「秋のキャンパス一斉清掃」を実施
 - ・北海道大学病院極東医療ミッションとしてロシア極東3地域を訪問
 - ・北海道大学病院で第11回北海道大学病院指導医のための教育ワークショップを開催
 - ・消防・防災訓練等の実施
 - ・薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行

- ・北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭を挙
 - ・低温科学研究所が国立大学附置研究所・センター長会議第1部会シンポジウム及び部会会議を開催
 - ・附属図書館講演会「Hokkaido University：キャンパスの国際化」を開催
 - ・総合博物館で「2014年度前期ミュージアムマイスター」認定式を挙
 - ・大島正健家関係資料を大学文書館で受贈
- 12月号**
- ・会計専門職大学院が開設10周年記念シンポジウムを開催
 - ・触媒化学研究センターが情報発信型国際シンポジウムを開催
 - ・触媒化学研究センターが7th Negishi-Brown Lecturesをパデュエ大学と共催
 - ・平成26年度低温科学研究所公開講座「低温の魅力～低温科学の最前線」を実施
 - ・観光学高等研究センター公開講座「連続対談：観光創造の最前線～教員とゲストが語る観光研究の魅力と課題～」(全5回)を開催
 - ・薬学部で第17回生涯教育特別講座を開催
 - ・平成26年度薬学部成績優秀賞授与式を挙
 - ・法学研究科・法学部・公共政策大学院で留学生パーティを開催
 - ・「法科大学院に関するアドバイザーグループ会議」を開催
 - ・農学研究院で平成26年度第1回、第2回FD研修会を開催
 - ・「脳科学研究教育センター合宿研修」の開催
 - ・歯学研究科で「動物供養祭」を挙
 - ・薬学部で救急救命講習を開催
 - ・防災訓練等の実施
 - ・北海道大学病院が独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)札幌北辰病院とICTネットワーク協定を締結
 - ・附属図書館で国際協力をテーマとしたパネル展示、講演会、図書展示を開催

お知らせ

- 2月号** ・過半数代表候補者の決定
- 3月号** ・共済組合員の皆様へ 被扶養者の認定又は取消等の届出は速やかに
- 4月号** ・附属図書館(本館・北図書館)朝8時開館の正式運用について
・平成26年度 人間ドックの実施について
- 5月号** ・平成26年度北海道大学公開講座(全学企画) 安全・安心な社会とくらしを創る
・企画展示「読んで知る北大の人と歴史」開催中
・北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設
- 6月号** ・北海道大学 緑のピアガーデン2014の開催予定
- 7月号** ・「北海道大学の役職員の給与等の水準(平成25年度)」の概要について
・被扶養者の要件の確認
・夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について
- 8月号** ・企画展示「北方資料からみる「江戸・蝦夷・ロシア」交流展」第1期：漂流民大黒屋光太夫の帰還とラクスマン来航
開催中
・書籍『学船 北海道大学 洋上のキャンパスおしよる丸』出版
- 9月号** ・医療費通知事業の実施
- 10月号** ・総合博物館の展示公開を一時休止
- 11月号** ・企画展示「北方資料からみる「江戸・蝦夷・ロシア」交流展」第2期：高田屋嘉兵衛とゴロヴニーン捕虜事件
開催中
・「北海道大学読本」改訂版の発行

寄稿等

- 3月号** ・定年退職を迎えるにあたって

博士学位記授与

- 1月号** ・課程博士22人, 論文博士7人
- 4月号** ・課程博士311人, 論文博士21人
- 7月号** ・課程博士24人, 論文博士3人
- 10月号** ・課程博士82人, 論文博士14人

レクリエーション

- 5月号** ・平成25年度 第26回札幌社会人フットサルリーグに出場
- 7月号** ・平成26年度学内職員バドミントン大会(個人戦)の開催
- 8月号** ・平成26年度学内バレーボール大会の開催
- 9月号** ・学内教職員ソフトボール大会の開催
- 10月号** ・教職員サッカークラブが平成26年度 第44回札幌社会人サッカーリーグに出場
・平成26年度学内教職員フットサル大会の開催
・教職員卓球大会の開催 - 団体戦・ペア・個人戦 -

同窓会との交流

- 1月号 ・三浦雄一郎氏80才エベレスト登頂記念祝賀会
- 2月号 ・恵迪寮同窓会「新年寮歌始めの会」
- 4月号 ・「北海道大学卒業パーティー2014」
・北海道大学函館同窓会「総会及び懇親会」
- 5月号 ・北海道大学ほっかいどう同窓会設立記念 ノーベル化学賞 鈴木章先生を囲む座談会

研 修

- 1月号 ・平成25年度北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員SD研修
・平成25年度北海道地区国立大学法人事務情報化講習会（Accessクエリ編・クエリ応用編）
- 2月号 ・平成25年度国立大学法人北海道大学会計実務研修
- 5月号 ・平成26年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）
- 8月号 ・平成26年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修
- 9月号 ・平成26年度国立大学法人北海道大学事務職員英語研修（グローバル化対応）
・平成26年度法人文書管理・個人情報保護・情報公開に関する研修会
- 10月号 ・平成26年度国立大学法人北海道大学会計実務研修
- 12月号 ・平成26年度国立大学法人北海道大学簿記研修
・北海道地区国立大学における学部・大学院入学前留学生教育プログラム 平成26年度留学生支援担当教職員研修及び
平成26年度北海道地区大学等留学生担当職員研修
・平成26年度北海道地区国立大学法人等会計事務研修（初級）
・平成26年度北海道地区国立大学法人等会計基準研修

表 敬 訪 問

(国内)

- 1月号 ・全日本空輸株式会社 執行役員 札幌支店長 飯塚 弘衛 氏
・JR北海道ホテルズ株式会社 代表取締役社長 島田 修 氏
・国際原子力機関（IAEA）核データ物理研究官 大塚 直彦 氏
・株式会社 日立製作所 取締役会長 川村 隆 氏
・独立行政法人海洋研究開発機構 理事 土橋 久 氏
- 2月号 ・北海道情報大学 理事長 松尾 泰 氏, 常務理事・法人本部長 中居 聰士 氏, 理事・事務局長 近藤 始 氏
・独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 副理事長 倉田 健児 氏
- 3月号 ・株式会社日本政策投資銀行 常務執行役員 橋本 哲実 氏
・日本経済新聞社札幌支社 支社長 和智 徳男 氏, 編集部長 加藤 仁 氏
- 4月号 ・三井造船株式会社 一行
・北見工業大学長 高橋 信夫 氏
- 5月号 ・NTTコミュニケーションズ株式会社 取締役第二営業本部長 荒木 和彦 氏
・小樽商科大学 学長 和田 健夫 氏
・北海道大学国際婦人交流会 一行
・北洋銀行 会長 横内 龍三 氏
・天使大学 学長 武藏 学 氏
- 6月号 ・北海道旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 島田 修 氏, 代表取締役会長 須田 征男 氏
- 7月号 ・独立行政法人国際協力機構 理事長 田中 明彦 氏
・JR北海道ホテルズ株式会社 代表取締役社長 石見 誠嗣 氏
・日本電子株式会社 代表取締役社長 栗原 権右衛門 氏, 株式会社ニコン 代表取締役会長 木村 眞琴 氏
・株式会社朝日新聞社北海道支社 支社長 森山 二朗 氏
・独立行政法人科学技術振興機構 理事長 中村 道治 氏
- 11月号 ・独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事長 古川 一夫 氏
・札幌高等裁判所長官 大橋 寛明 氏
- 12月号 ・全日本空輸株式会社 上席執行役員 札幌支店長 飯塚 弘衛 氏

(海外)

- 1月号 ・済州大学校 高昌燮 世界環境・平和島センター長
・北京工業大学 鄭吉春 大学委員長
- 2月号 ・タイ王国 地理情報・宇宙技術開発機関 Dr. Pornsook Chongprasith
・ブルキナファソ Mme. Joséphine Amédée OUEDRAOGO / BARO 水省衛生総局長
・米国 ハワイ州 Shan Tsutsui 副知事
- 3月号 ・サバ大学（マレーシア）Mohd. Harun Abdullah 副学長
・駐日ポーランド共和国大使館 Cyryl Kozaczewski 大使
・極東農業大学（ロシア）Pavel Tikhonchuk 学長
・JSPSボン研究連絡センター 小平桂一 センター長
・タイ科学技術省 Weerapong Pairsuwan 事務次官他

- ・世界経済外交大学（ウズベキスタン）Khamdamov Mirzoumid 教授
- ・駐日カナダ大使館 Stéphane-Enric Beaulieu 参事官
- ・駐日南アフリカ大使館 Mohau Pheko 大使
- ・在カナダ日本国大使館 奥田紀宏 特命全権大使
- ・フィリピン科学技術省 Amelia P. Guevara 事務次官
- ・持続社会構築環境マイスター育成シンポジウム 関係者
- 4月号
 - ・ミャンマー Maung Maung Soe 気象水文課長
 - ・アジア工科大学（タイ）山本 和夫 副学長
 - ・米国大使館 Jessica Webster 経済・科学担当公使
 - ・アブドラ国王科学技術大学（サウジアラビア）Arnab Pain准教授、アイルランド国立大学ダブリン校（アイルランド）William Hall教授、メルボルン大学（オーストラリア）David Jackson教授
 - ・アイルランド Frances Fitzgerald 青少年・児童省大臣
 - ・モンゴル、マレーシア、ベトナム訪問団（モンゴル国立大学、マレーシアマルチメディア大学、ベトナム国立大学ホーチミン科学大学他）
- 5月号
 - ・国立政治大学（台湾）湯京平 社会科学院 副院長
 - ・中国総領事館 滕安軍 総領事
 - ・厦門大学（中国）朱崇実 学長
 - ・スタンフォード大学医学部放射線腫瘍学科Quynh-Thu Le主任教授
 - ・湖南大学（中国）曹一家 副学長
- 6月号
 - ・駐日リトアニア共和国大使館 Egidijus Meilunas特命全権大使
 - ・マイソール大学（インド）Kanchugarakoppal Subbegowda Rangappa 学長
 - ・イーストアングリア大学セインズベリー日本芸術研究所（英国）Simon Kaner 副所長
 - ・タマサート大学（タイ）シリントーン国際工学部 Somnuk Tangtermsirikul 事務局長
 - ・大連理工大学（中国）李俊傑 副学長
- 7月号
 - ・太平洋国立大学（ロシア）Sergey Ivanchenko 学長
 - ・パテイン大学（ミャンマー）Nyunt Phay 学長
- 8月号
 - ・駐日インド大使館 Deepa Gopalan Wadhwa 特命全権大使
 - ・駐日パキスタン・イスラム共和国大使館 Farukh Amil 特命全権大使
 - ・在モンテリオール日本国総領事館 新井 辰夫 総領事
- 9月号
 - ・ハルビン工業大学（中国）エネルギー科学及び工業学院 淡 和平 教授
 - ・忠北大学校（韓国）Doo Hyun Kim 工学部長
- 10月号
 - ・フィンランドセンター Merja Karppinen 所長
 - ・パテイン大学（ミャンマー）Nyunt Phay 学長
- 11月号
 - ・ブカレスト大学（ルーマニア）Mircea Dumitru 学長
 - ・モンクット王ラカバン工科大学（タイ）Monai Krairiksh 総長代理
- 12月号
 - ・ザンビア大学（ザンビア）Stephen Simukanga 学長

諸会議の開催状況（平成25年12月～平成26年11月分掲載）

学 内 規 程

- 1月号
 - ・国立大学法人北海道大学総長室規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学入構車両規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学職員退職手当規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学安全衛生委員会規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学船員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学特任教員就業規則及び国立大学法人北海道大学職員育児休業・介護休業等規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学船員労働時間、休日及び休暇規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程
- 2月号
 - ・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学次世代大学力強化推進会議規程
 - ・国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学大学力強化推進本部規程

- ・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学創成研究機構共用機器管理センター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
- 3月号
 - ・国立大学法人北海道大学職員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学船員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学教員の定年前退職に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学職員退職手当規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学政府調達規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学情報基盤センター大型計算機システム利用規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学副学長の任命及び任期に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学産学連携本部規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学産学連携本部運営委員会規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学産学連携本部知的財産審査会規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学職務発明規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学観光学高等研究センター規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学外国語教育センター規程の一部を改正する規程
- 4月号
 - ・北海道大学病院規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学成果有体物取扱規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学組織規則等の一部を改正する規則
 - ・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学経営協議会規程等の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学広報室規程等の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学アドミッションセンター企画運営会議規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構共用機器管理センター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学国際本部規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学国際本部日本語・日本文化研修コース規程及び国立大学法人北海道大学国際本部日本語研修コース規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学フード&メディカルイノベーション推進本部規程
 - ・国立大学法人北海道大学フード&メディカルイノベーション推進本部運営委員会規程
 - ・国立大学法人北海道大学役員補佐の任命及び任期に関する規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学入学者選抜委員会規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学教務委員会規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学大学院物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム運営委員会規程
 - ・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学大学院通則の一部を改正する規則
 - ・教育職員免許状授与の所要資格の取得に関する規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学短期留学プログラム規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学国際交流科目規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学大学院物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム規程
 - ・北海道大学大学院理工系専門基礎科目規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学病理解剖受託規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学病院受託実習生受入れ規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学病院研修生受入れ規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学病院エイズ診療従事者研修生受入れ規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学研修登録医受入れ規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学病院薬剤師実務受託研修生受入れ規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学宿舍貸与規程の一部を改正する規程

- ・国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学病院諸料金規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学水産学部附属練習船余席共同利用規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学病的材料検査に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学産業創出講座等規程
- ・国立大学法人北海道大学受託研究員規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学私学研修員等受入れ規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学外国人受託研修員規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学中国・人材育成事業研修員規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学における教員の人事等に関する特例規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員の特別の有給休暇に関する規程等を廃止する規程
- ・国立大学法人北海道大学全学運用教員規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学自家用電気工作物保安規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学水産学部等の施設に係る自家用電気工作物保安規程を廃止する規程
- ・国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学における共用スペース使用規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学クラーク会館規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学借上宿舍等規程の一部を改正する規程
- ・北海道地区国立大学大滝セミナーハウス規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学遠友学舎規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学事業所内保育所ともに規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学事業所内保育所ともに運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学大学連携研究設備ネットワーク設備利用規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学産業イノベーション事業による設備利用規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学入構車両規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学文学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学経済学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学理学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学薬学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学工学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学農学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学獣医学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学病院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院法学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院獣医学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院情報科学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院理学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院農学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院生命科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院保健科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院工学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院総合化学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院公共政策学教育部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院工学研究院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学遺伝子病制御研究所共同利用・共同研究拠点運営委員会規程の一部を改正する規程

- ・北海道大学附属図書館利用規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学スラブ研究センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学スラブ研究センター協議会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学スラブ研究センター共同利用・共同研究拠点運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学スラブ研究センター共同利用・共同研究拠点課題等審査委員会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学観光学高等研究センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学社会科学実験研究センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学社会科学実験研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学環境ナノ・バイオ工学研究センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学環境ナノ・バイオ工学研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学トポロジー理工学教育研究センター規程及び北海道大学トポロジー理工学教育研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学環境健康科学研究教育センター運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学国際連携研究教育局規程
- ・北海道大学国際連携研究教育局運営委員会規程
- 5月号
 - ・国立大学法人北海道大学人材育成本部規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学遺伝子病制御研究所規程の一部を改正する規程
- 6月号
 - ・北海道大学教務委員会規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション厚岸臨海実験所及び室蘭臨海実験所共同利用規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション厚岸臨海実験所及び室蘭臨海実験所共同利用協議会規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター宿泊施設利用規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学職員給与規程等の一部を改正する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学職員退職手当規程の一部を改正する規程
- 7月号
 - ・国立大学法人北海道大学会計規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学契約規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学国際本部日本語研修コース規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学における聴講生等の検定料等の額に関する規程の一部を改正する規程
- 8月号
 - ・国立大学法人北海道大学における研究費の不正使用に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学産学連携本部規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学病院規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構共用機器管理センター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
- 9月号
 - ・北海道大学通則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学における特別聴講学生及び特別研究学生に係る授業料等の不徴収に関する規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学病原体等安全管理規程の一部を改正する規程
- 10月号
 - ・北海道大学国際交流科目規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学船員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学創成研究機構規程等の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学病院規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学遺伝子病制御研究所規程の一部を改正する規程
- 11月号
 - ・北海道大学大学院獣医学研究科附属動物病院規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程
- 12月号
 - ・北海道大学アイヌ・先住民研究センター規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学経営協議会規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学病院受託実習生受入れ規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学病院研修生受入れ規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学病院エイズ診療従事者研修生受入れ規程及び北海道大学病院薬剤師実務受託研修生受入れ規程を廃止する規程
 - ・北海道大学病院規程の一部を改正する規程

訃報

- 1月号 ・名誉教授 小林 好宏 氏
 2月号 ・名誉教授 伊藤 英治 氏
 ・名誉教授 山田 尚達 氏
 ・名誉教授 山田 定市 氏
 ・名誉教授 實方 謙二 氏
 ・名誉教授 渡辺 勝也 氏
 3月号 ・名誉教授 木下 眞二 氏
 ・名誉教授 田村 勉 氏
 ・名誉教授 小山 次郎 氏
 4月号 ・名誉教授 小川 雄一 氏
 6月号 ・名誉教授 松本 毅 氏
 ・財務部調達課 主任 渡邊 博 氏
 8月号 ・情報環境推進本部情報推進課係長 伏見 美徳 氏
 9月号 ・名誉教授 石川 武 氏
 11月号 ・名誉教授 宮原 孝四郎 氏
 ・名誉教授 齋藤 玲 氏

資料

- 4月号 ・平成26年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
 ・平成26年度入学者の都道府県分布及び地域比率
 5月号 ・役職員数（平成26年5月1日現在）
 6月号 ・在籍学生数（平成26年5月1日現在）
 ・平成26年度外国人留学生数（平成26年5月1日現在）
 ・平成26年度国別外国人留学生数（平成26年5月1日現在）
 ・平成25年度卒業・修了者の就職等状況一覧
 11月号 ・役職員数（平成26年10月1日現在）
 ・在籍学生数（平成26年10月1日現在）
 ・広報誌等一覧（平成26年10月調査）
 12月号 ・平成26年度外国人留学生数（平成26年11月1日現在）
 ・平成26年度国別外国人留学生数（平成26年11月1日現在）
 ・北大時報掲載記事事項別一覧（平成26年掲載分）

編集メモ

●木々の彩りが美しい秋の季節が終わり、キャンパスはあっという間に雪景色となりました。

本年も本学の広報誌をご覧いただきましてありがとうございました。広報誌は当課発行のものを含め、本学ホームページにも掲載していますので、ぜひ

そちらもご覧ください。

◆<http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/>

●北大時報は、この1年も学内の皆様のご協力により発行することができました。厚くお礼申し上げます。



2013.12.1 函館本線 姫川（森町）

北の鉄道風景 21 初冬の駒ヶ岳

木曾の御嶽山の噴火は、多くの人々に大きな衝撃を与えた。北海道に暮らす人々は、御嶽山の噴火は「対岸の火事」ではなく、今回と同じような災害が道内でも起きる可能性が有ることを改めて認識すべきであろう。写真の北海道駒ヶ岳も、江戸時代まで約5,000年間、活動を休止していたにもかかわらず、1640年（寛永17年）に大噴火して以来、現在まで小噴火と大噴火を繰り返してきた活火山である。元々

は羊蹄山と同じような円錐形の成層火山であったが、1640年の大噴火によって山体崩壊が発生した結果、現在のような双耳峰になったという。写真は函館本線の姫川駅構内、雪化粧した駒ヶ岳を背景に、「北斗星」が夜明けの道南を駆け抜ける光景である。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑫ No.729 平成26年12月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html